
令和元年度
福岡市高齢者実態調査
報告書
【概要版】

令和2年3月
福岡市 保健福祉局

< 目 次 >

I 調査概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の概要.....	1
3. 回収の結果.....	2
4. 資料の見方.....	2
II 調査結果	3
第1章 高齢者一般調査共通設問	3
1. 回答者の属性.....	3
2. 世帯状況.....	4
第2章 高齢者一般調査 A	5
1. 日常生活.....	5
(1) 外出.....	5
(2) 近所付き合い.....	6
(3) 孤立死.....	7
(4) 災害時や緊急時.....	8
2. 生きがい・社会活動.....	9
(1) 生きがいに感じる事.....	9
(2) ボランティア活動.....	10
(3) 日々の過ごし方.....	11
第3章 高齢者一般調査 B	12
1. 住まい.....	12
(1) 住居状態.....	12
(2) 住まい.....	13
2. 健康状態.....	14
(1) 健康状態.....	14
(2) 健康づくりや介護予防.....	16
(3) 口腔.....	17
(4) 認知症.....	18
3. 医療・福祉.....	19
(1) いきいきセンターふくおか（地域包括センター）.....	19
(2) 在宅医療.....	20
(3) 今後の介護意向.....	21
(4) 行政への要望.....	22

第4章 介護サービス調査共通設問	23
1. 回答者の属性	23
(1) 性別・年齢.....	23
(2) 要介護度	24
2. 在宅医療.....	25
3. 今後どのように介護を受けたいか.....	27
4. 介護保険制度	28
5. 介護者	29
(1) 介護者の属性.....	29
(2) 介護者の就業.....	30
(3) 今後の介護の仕方.....	31
第5章 介護保険在宅サービス利用者調査	32
1. 介護保険サービスの利用状況.....	32
2. 在宅で生活するために必要性が高いサービス	33
第6章 介護保険在宅サービス未利用者調査	34
1. 介護保険サービスの利用	34
(1) 在宅サービスの利用経験.....	34
(2) 在宅サービスを利用していない理由.....	35
2. 今後の介護サービスの利用	36
第7章 介護保険施設等サービス利用者調査	37
1. 施設等への入所を希望した理由・現在の施設の満足度.....	37
2. 施設等を選ぶときに重視する点	38
第8章 介護支援専門員調査	39
1. 回答者の属性	39
2. 勤務形態・兼務内容	40
3. ケアマネジメント	41
(1) 給付管理件数.....	41
(2) 組み合わせた保険外サービス.....	41
(3) 今後充実が必要なサービス	42
4. 地域ケア会議	43
5. 行政に期待する役割	44

I 調査概要

1. 調査の目的

福岡市に在住する高齢者などの保健福祉に関するニーズ・意識などを把握することにより、「福岡市介護保険事業計画」の策定に必要な基礎的データを収集・分析するとともに、本市の高齢者福祉施策の向上に資することを目的とする。

2. 調査の概要

調査種別	対象者・調査人数	発送日	回収期限
高齢者一般調査A	・市内在住の60歳以上（令和元年6月時点）の者 ・3,000人	令和元年 11月15日	令和元年 12月6日 郵送着まで
高齢者一般調査B	・市内在住の60歳以上（令和元年6月時点）の者 ・3,000人		
介護保険在宅サービス利用者調査	・介護保険在宅サービス利用者（令和元年6月時点） ・3,000人		
介護保険在宅サービス未利用者調査	・在宅の要介護認定者のうち、サービス未利用者（令和元年6月時点） ・2,000人		
介護保険施設等サービス利用者調査	・市内の介護保険施設、グループホーム入所者（令和元年6月時点） ・1,500人		
介護支援専門員調査	・市内の居宅介護支援事業所、いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）所属の介護支援専門員（令和元年6月時点） ・1,585人		

3. 回収の結果

調査種別	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
高齢者一般調査A	3,000	1,869	62.3%	1,866	62.2%
高齢者一般調査B	3,000	1,768	58.9%	1,764	58.8%
介護保険在宅サービス利用者調査	3,000	1,533	51.1%	1,524	50.8%
介護保険在宅サービス未利用者調査	2,000	1,072	53.6%	1,064	53.2%
介護保険施設等サービス利用者調査	1,500	923	61.5%	810	54.0%
介護支援専門員調査	1,585	942	59.4%	939	59.2%

※回収された調査票から白紙のものを除いた有効票のみを集計に使用している。

4. 資料の見方

- (1)集計結果は、標本数（図ではnと表示）を基数として百分比（%）を算出し、小数点第1位（第2位を四捨五入）までを図表に表している。
- (2)小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の計が100%とならない場合がある。また複数回答の質問においては、百分比の合計が100%を超える場合がある。
- (3)図表中の「N」（Number of casesの略）とは設問に対する回答件数の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数である。
- (4)図表の表頭、表側部分の文章は、適宜簡略化している場合があるので、必要に応じて巻末の調査票を参照のこと。
- (5)グラフ内の数値の単位はすべて%である。
- (6)2つ以上の選択肢を合計して表している比率は、各選択肢の割を合計して算出している。
- (7)文中の選択肢の表記は「」で行い、2つ以上のものを合計して表す選択肢は『』で表記している。

Ⅱ 調査結果

第1章 高齢者一般調査共通設問

「高齢者一般調査 A」「高齢者一般調査 B」の2つの調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるよう「共通設問」として掲載した。

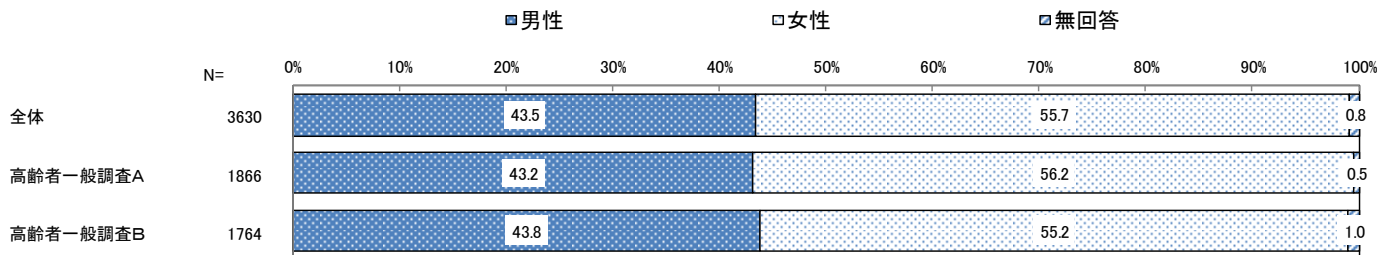
1. 回答者の属性

(調査A：問2・問3、調査B：問2・問3)

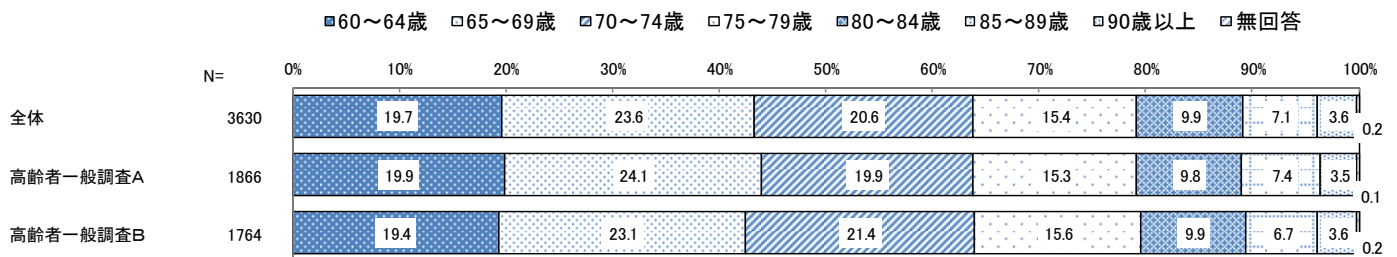
◇回答者は、調査Aでは「男性」が43.2%、「女性」が56.2%、調査Bでは「男性」が43.8%、「女性」が55.2%となっている。

◇『65歳以上の高齢者』は、調査Aでは80.0%、調査Bでは80.3%となっている。『75歳以上の後期高齢者』は、調査Aでは36.0%、調査Bでは35.8%となっている。

【性別】



【年齢】



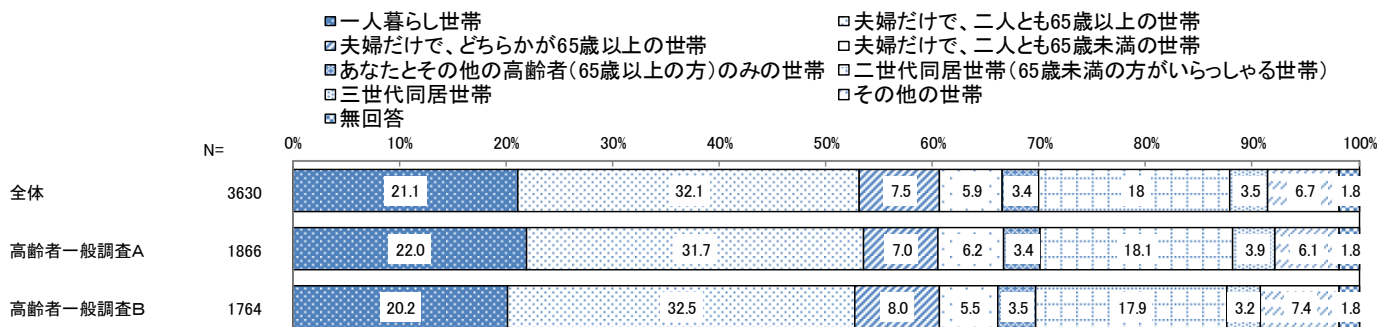
2. 世帯状況

(調査A：問5・問5-1、調査B：問5・問5-1)

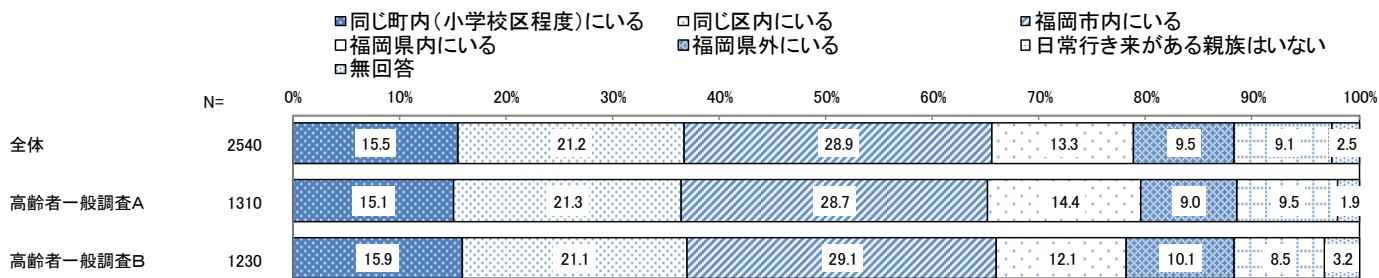
◇「一人暮らし世帯」は、調査Aでは22.0%、調査Bでは20.2%となっている。

◇「一人暮らし世帯」と「夫婦だけで、二人とも65歳以上の世帯」、「夫婦だけで、どちらかが65歳以上の世帯」、「夫婦だけで、二人とも65歳未満の世帯」、「あなたとその他の高齢者（65歳以上の方）のみの世帯」を合わせた『高齢者のみで暮らす世帯』のうち、日常行き来がある親族のいる場所が『福岡市内』であるのは、調査Aでは65.1%、調査Bでは66.1%となっている。

【世帯構成】



【日常行き来がある親族のいる場所】

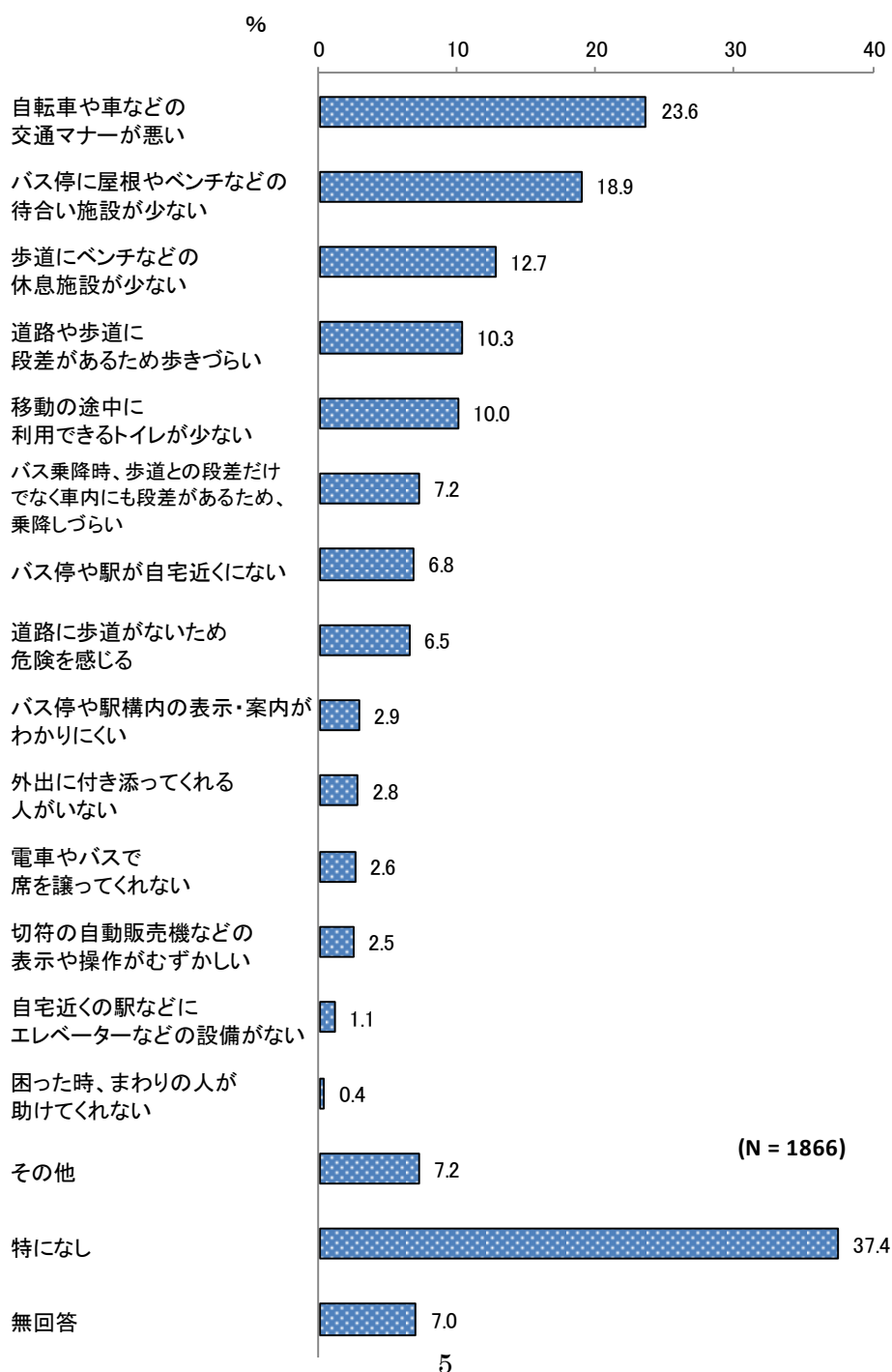


第2章 高齢者一般調査 A

1. 日常生活

(1) 外出（問8・問8-3・問12）

- ◇一週間あたりの外出頻度は、「ほとんど毎日」が47.9%で最も高く、次いで「週4～5日」が22.9%、「週2～3日」が19.9%となっている。
- ◇外出しない理由は、「体の具合が悪い」が34.8%で最も高く、次いで「特に外出する用事がない」が30.3%となっている。
- ◇外出の際に困っていることは、「自転車や車などの交通マナーが悪い」が23.6%、「バス停に屋根やベンチなどの待合い施設が少ない」が18.9%となっている。

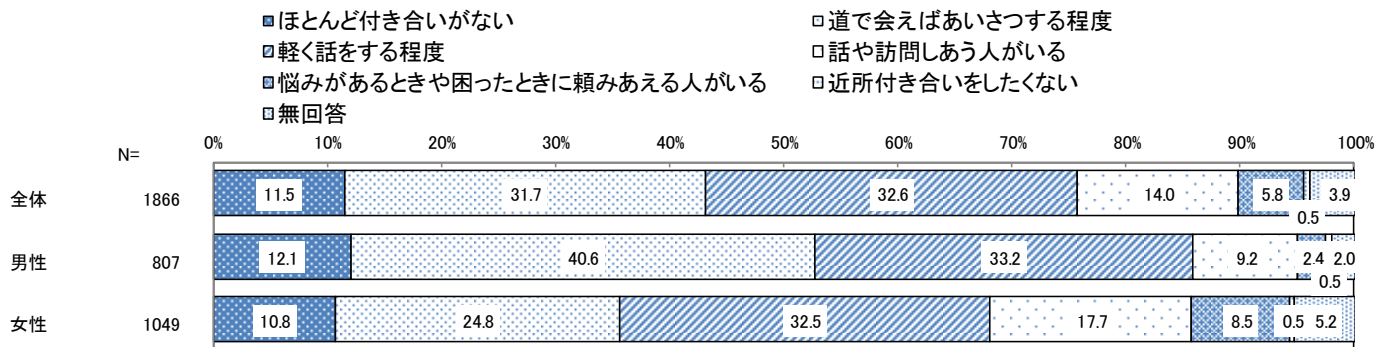


(2) 近所付き合い (問 14)

◇近所付き合いの程度は、「ほとんど付き合いがない」と「道で会えばあいさつする程度」を合わせた『近所付き合いが少ない』は43.2%、一方、「話や訪問しあう人がいる」と「悩みがあるときや困ったときに頼みあえる人がいる」を合わせた『近所付き合いが多い』は19.8%となっている。

◇『近所付き合いが少ない』は男性で52.7%、女性で35.6%となっており、男性は女性よりも『近所付き合いが少ない』の割合が高い。

【近所付き合いの程度】



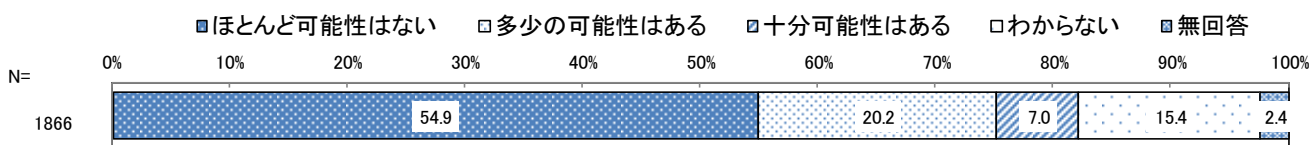
(3) 孤立死 (問 15・問 15-1・問 16)

◇孤立死する可能性の認識は、「ほとんど可能性はない」が54.9%で最も高く、次いで「多少の可能性はある」と「十分可能性はある」を合わせた『可能性がある』が27.2%となっている。

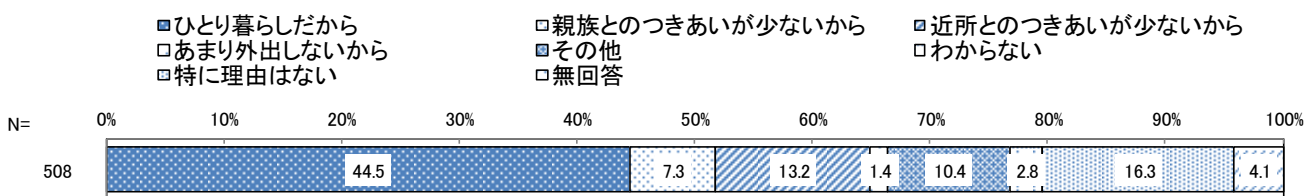
◇孤立死する可能性がある理由は、「ひとり暮らしだから」が44.5%で最も高く、次いで「特に理由はない」が16.3%、「近所とのつきあいが少ないから」が13.2%となっている。

◇孤立死防止策として必要なことは、「行政が提供する福祉サービス」が44.3%で最も高く、次いで「ご近所の見守り」が34.1%となっている。

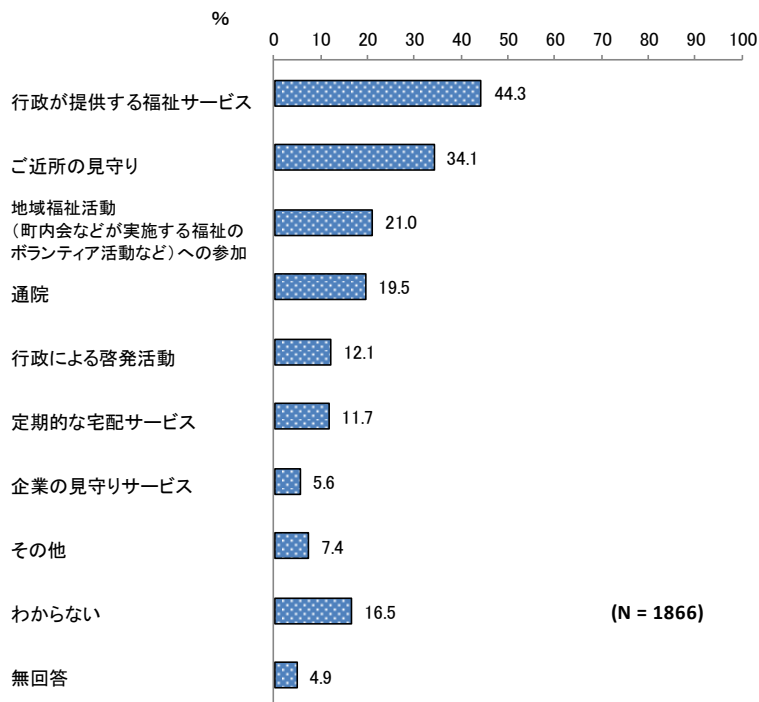
【孤立死する可能性の認識】



【孤立死する可能性がある理由】



【孤立死防止策として必要なこと】



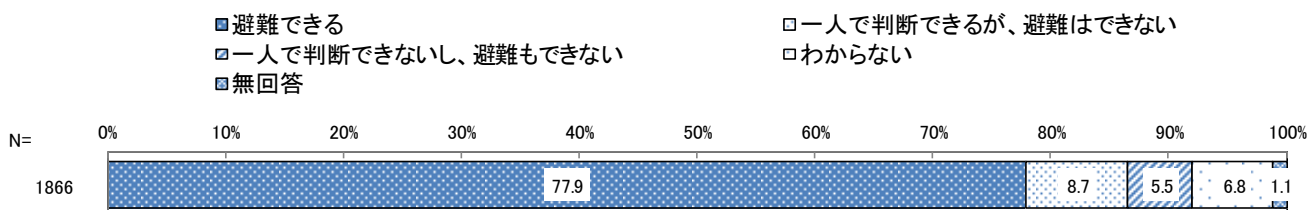
(4) 災害時や緊急時 (問 19・問 20・問 21)

◇災害時や緊急時における一人での避難は、「避難できる」が 77.9%、「一人で判断できるが、避難はできない」と「一人で判断できないし、避難もできない」を合わせた『避難できない』の割合が 14.2% となっている。

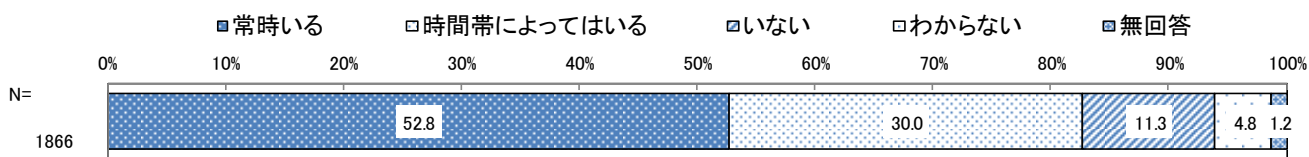
◇災害時に手助けを頼める人の有無は、「常時いる」が 52.8%で最も高く、次いで「時間帯によってはいる」が 30.0%、「いない」が 11.3%となっている。一人暮らし世帯では、「いない」が 33.4%と他の世帯構成と比べて高くなっている。

◇災害時の心配事や問題点は、全体で「避難所での生活が不安」が 57.9%で最も高く、次いで「情報をうまく入手できない」が 23.7%となっている。

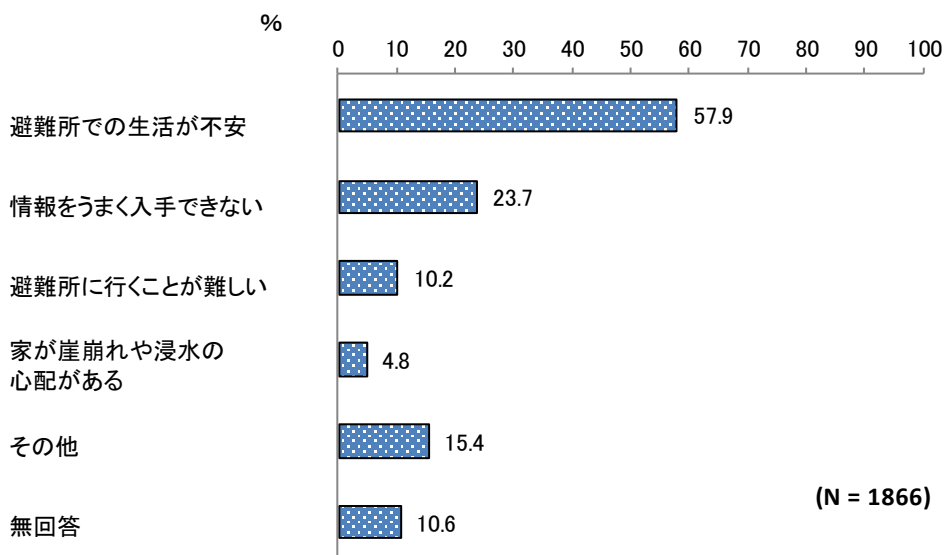
【災害時や緊急時における一人での避難】



【災害時や緊急時に手助けを頼める人の状況】



【災害時の心配事や問題点の内容】

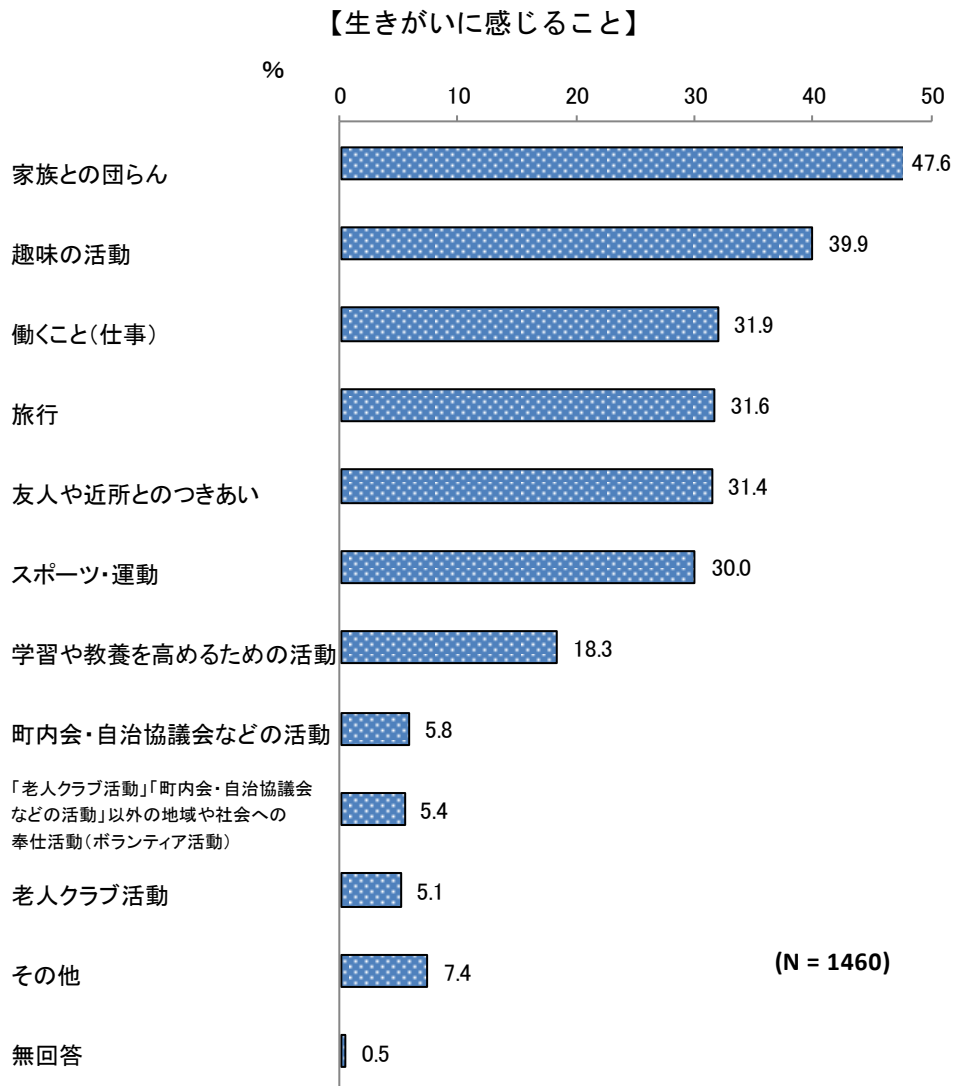


2. 生きがい・社会活動

(1) 生きがいに感じること (問 24-1)

◇生きがいを感ずることは、「家族との団らん」が47.6%で最も高く、次いで「趣味の活動」が39.9%となっている。

◇男性の上位3位は「家族との団らん」「趣味の活動」「働くこと」、女性の上位3位は「家族との団らん」「友人や近所とのつきあい」「趣味の活動」となっている。



(2) ボランティア活動 (問 26・問 26-3・問 26-5・問 26-9)

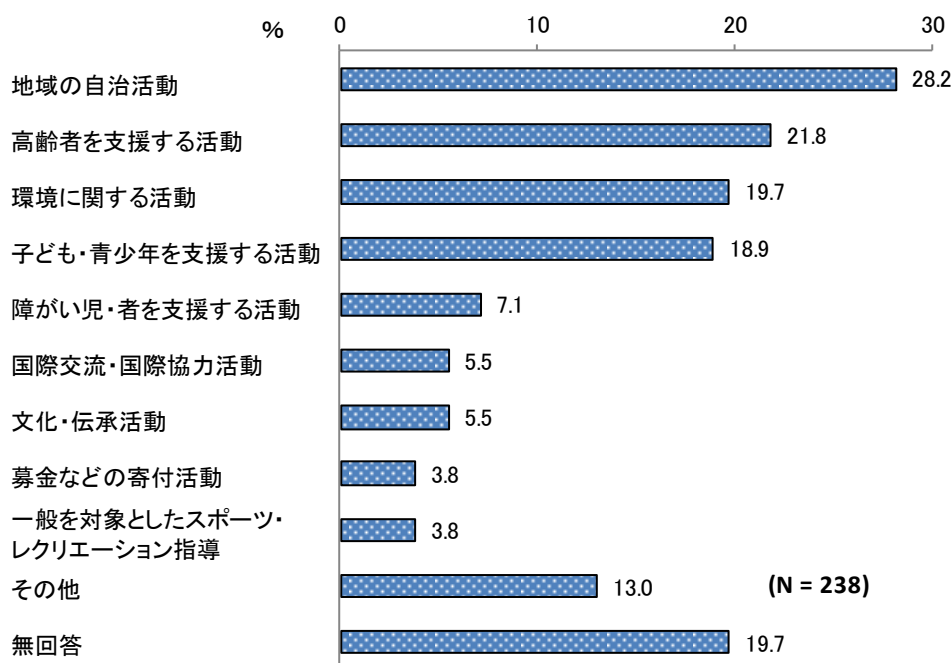
◇ボランティア活動参加の有無は、「現在活動している」が 12.8%、「活動していない」が 85.0%となっている。

◇ボランティア活動の内容としては、「地域の自治活動」が 28.2%で最も高く、次いで「高齢者を支援する活動」が 21.8%、「環境に関する活動」が 19.7%となっている。

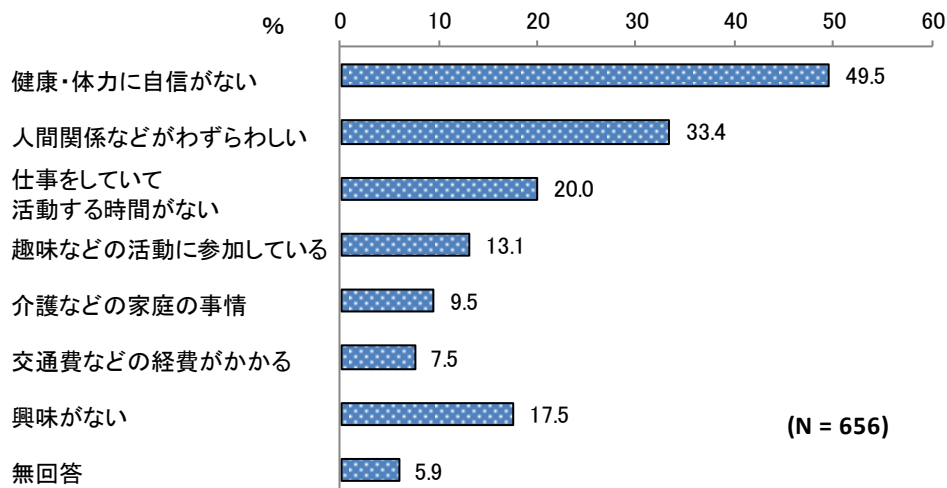
◇ボランティア活動をしていない人のうち、「積極的にやりたいと思っている」と「機会があればやりたいと思っている」を合わせた『参加したい』が 27.6%、「あまりやりたいとは思わない」と「やりたいとは思わない」を合わせた『やりたいとは思わない』が 41.4%となっている。

◇『やりたいとは思わない』と回答した人が挙げたその理由としては、「健康・体力に自信がない」が 49.5%で最も高く、次いで「人間関係などがわずらわしい」が 33.4%となっている。

【ボランティア活動の内容】



【ボランティア活動に参加しない理由】

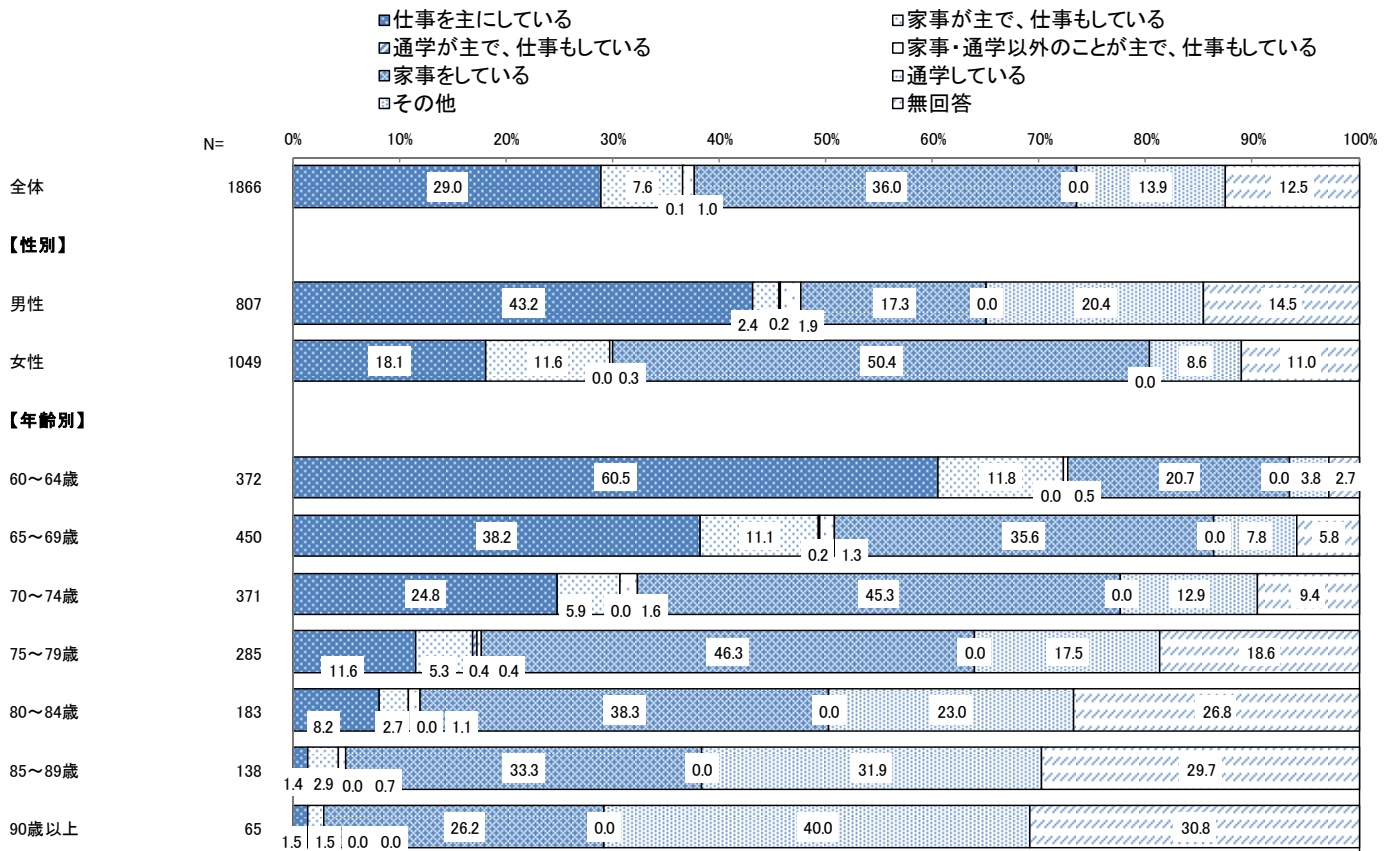


(3) 日々の過ごし方 (問 29)

◇日々の過ごし方は、「家事をしている」が36.0%で最も高く、次いで「仕事を主にしている」が29.0%となっている。男性では「仕事を主にしている」が43.2%で最も高く、女性では「家事をしている」が50.4%で最も高くなっている。

◇「仕事を主にしている」と回答した人を年齢別にみると、60～64歳で60.5%、65～69歳で38.2%、70～74歳で24.8%、75～79歳で11.6%と、年齢が若いほど割合が高くなる傾向にある。

【日々の過ごし方 (性別・年齢別)】



第3章 高齢者一般調査 B

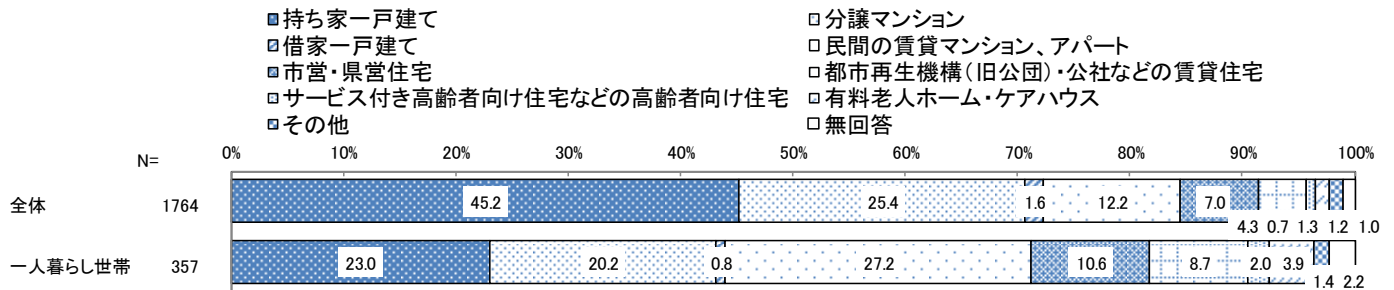
1. 住まい

(1) 住居状態 (問8・問8-1)

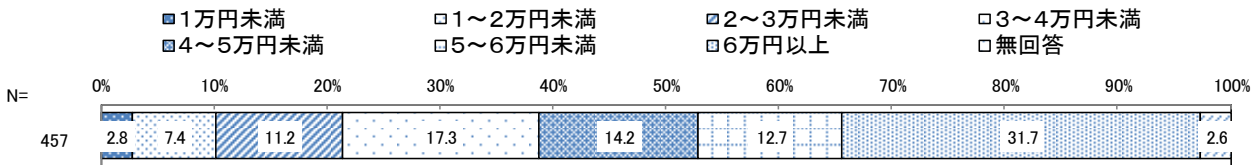
◇住居形態は、「持ち家一戸建て」が45.2%で最も高く、次いで「分譲マンション」が25.4%となっていて、これらを合わせた『持ち家』が70.6%となっている。ただし一人暮らし世帯に限ると『持ち家』が43.2%と他の世帯構成と比べて低くなっている。

◇「借家一戸建て」「民間の賃貸マンション、アパート」「市営・県営住宅」「都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅」「サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向け住宅」を合わせた『賃貸住宅』に住んでいる人の1か月の家賃は、「6万円以上」が31.7%で最も高く、次いで「3~4万円未満」が17.3%、「4~5万円未満」が14.2%となっている。

【住居形態】



【住まいの1か月の家賃】



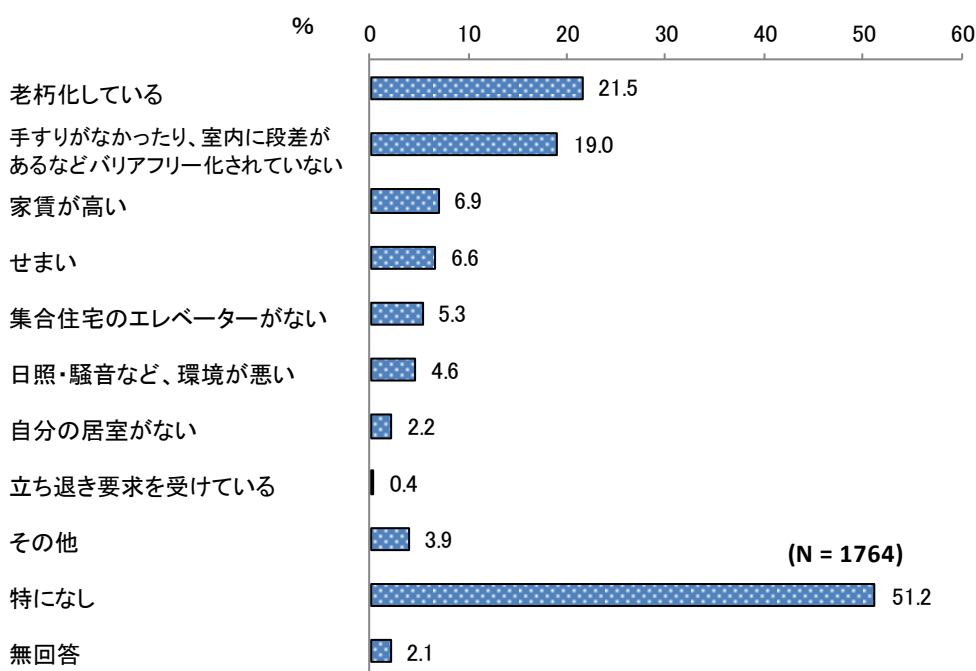
(2) 住まい (問9・問10・問10-1)

◇現在の住まいで困っていることは、「特になし」が51.2%で最も高くなっており、半数以上が今のところ住居に不便を感じていない。困っていることは、「老朽化している」が21.5%で最も高く、次いで「手すりがなかったり、室内に段差があるなどバリアフリー化されていない」が19.0%となっている。

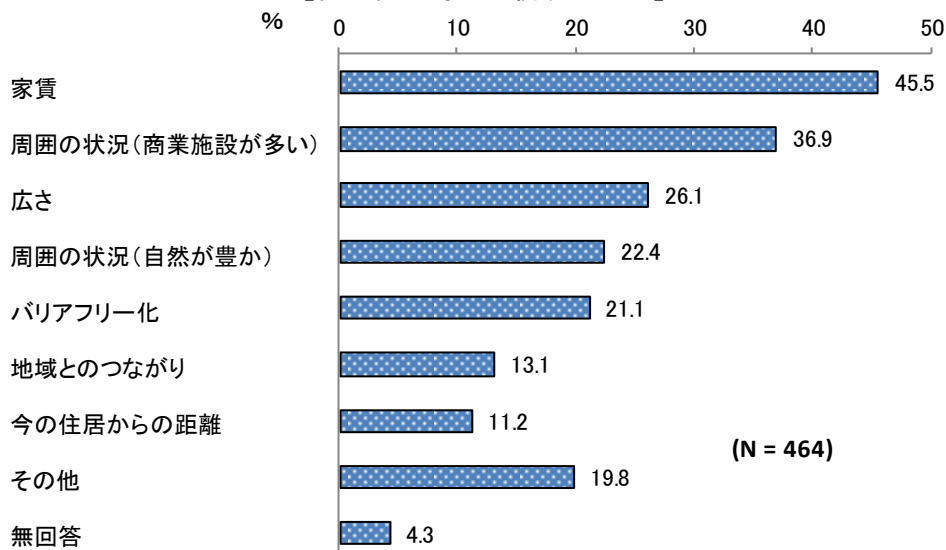
◇現在の住まいに亡くなるまで住み続ける意向は、「考えている」が71.9%、「考えていない」が26.3%となっている。

◇現在の住まいに亡くなるまで住み続ける意向のない人が住み替え時に重視することは、「家賃」が45.5%で最も高く、次いで「周囲の状況（商業施設が多い）」が36.9%となっている。

【住まいで困っていること】



【住み替え時に重視すること】



2. 健康状態

(1) 健康状態 (問12)

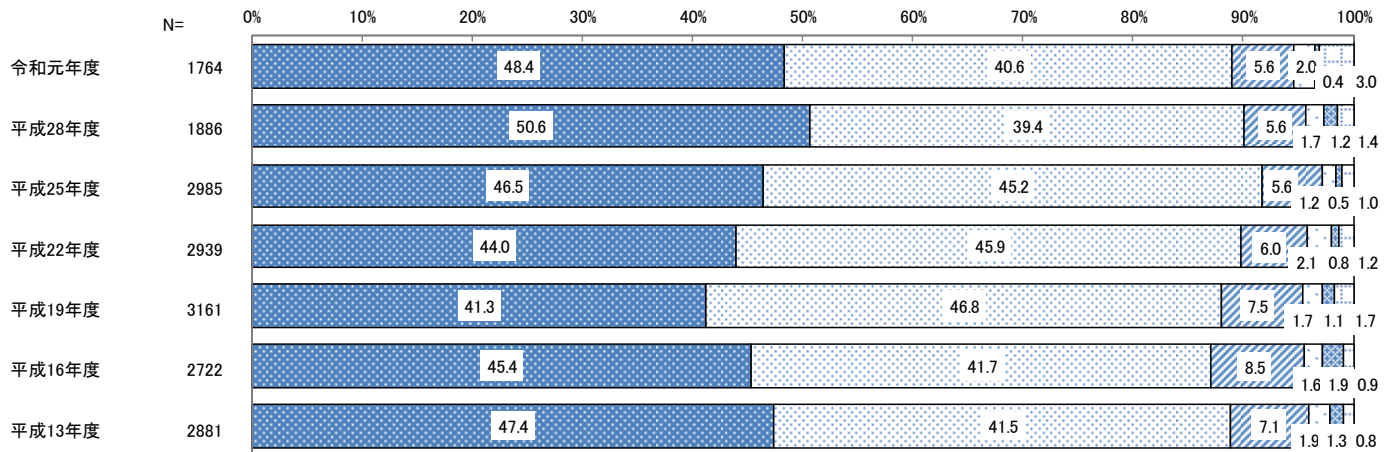
◇現在の健康状態は、「健康で、普通に生活している」の48.4%、「何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分でできるし、外出もひとりのできる」の40.6%を合わせた『自立した生活をしている』が89.0%となっている。

◇過去の調査結果と比較すると、平成19年度調査以降増加していた「健康で、普通に生活している」は、今回わずかに減少しているが、前回調査と比べて大きな変化はみられない。

◇年齢別にみると、『自立した生活をしている』は74歳以下では9割以上、75～84歳では8割以上、85～89歳では約6割、90歳以上では約4割と、年齢が高くなるほど割合は減少している。

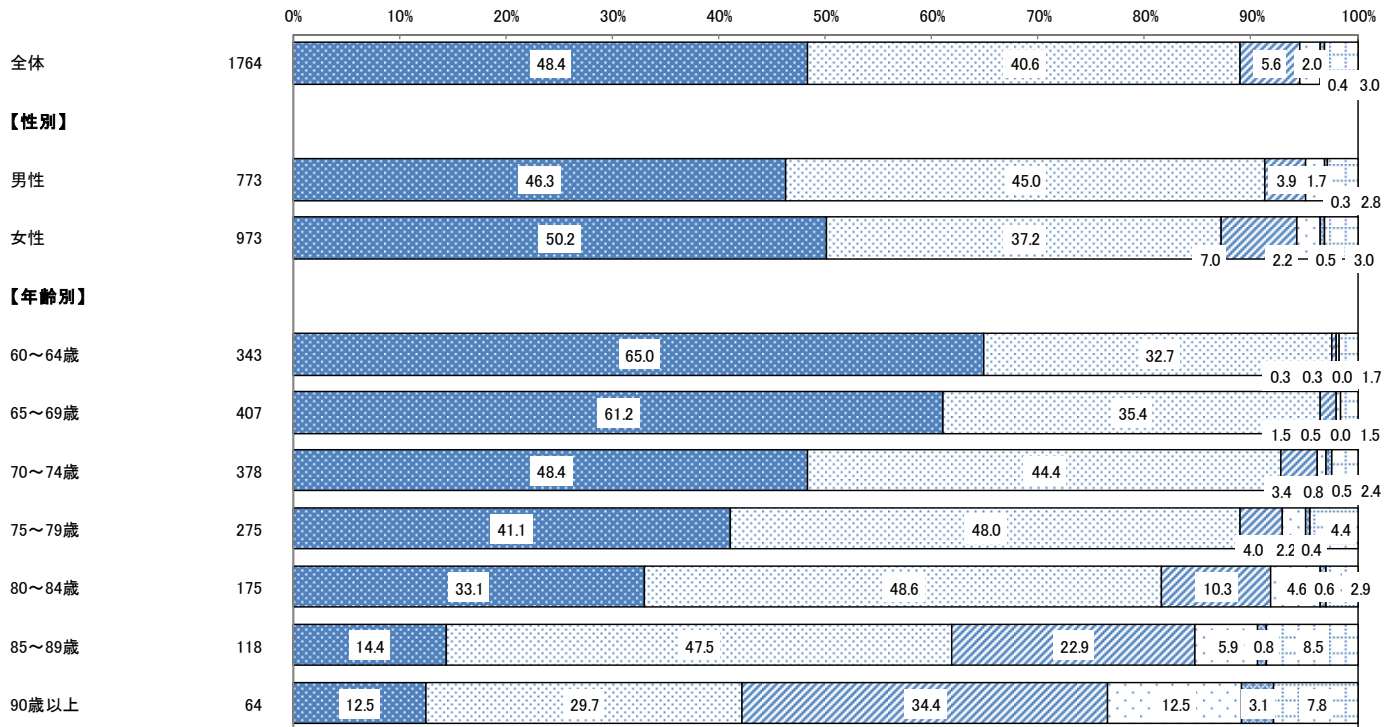
【現在の健康状態 (経年比較)】

- 健康で、普通に生活している
- 何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分でできるし、外出もひとりのできる
- ▨家の中での生活はおおむね自分でやっているが、何らかの病気や障がいがあり、外出はひとりできない
- ▨病気や障がいがあるが、家の中での生活の多くに手助けが必要で、日中もベッド(ふとん)の上での生活が主体である
- 病気や障がいがあるが、家の中での生活全般に手助けが必要で、一日中ベッド(ふとん)の上にいる
- 無回答



【現在の健康状態（性別・年齢別）】

- 健康で、普通に生活している
- 何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりでできる
- 家の中での生活はおおむね自分でやっているが、何らかの病気や障がいがあり、外出はひとりでできない
- 病気や障がいがあるが、家の中での生活の多くに手助けが必要で、日中もベッド（ふとん）の上での生活が主体である
- 病気や障がいがあるが、家の中での生活全般に手助けが必要で、一日中ベッド（ふとん）の上にいる
- 無回答

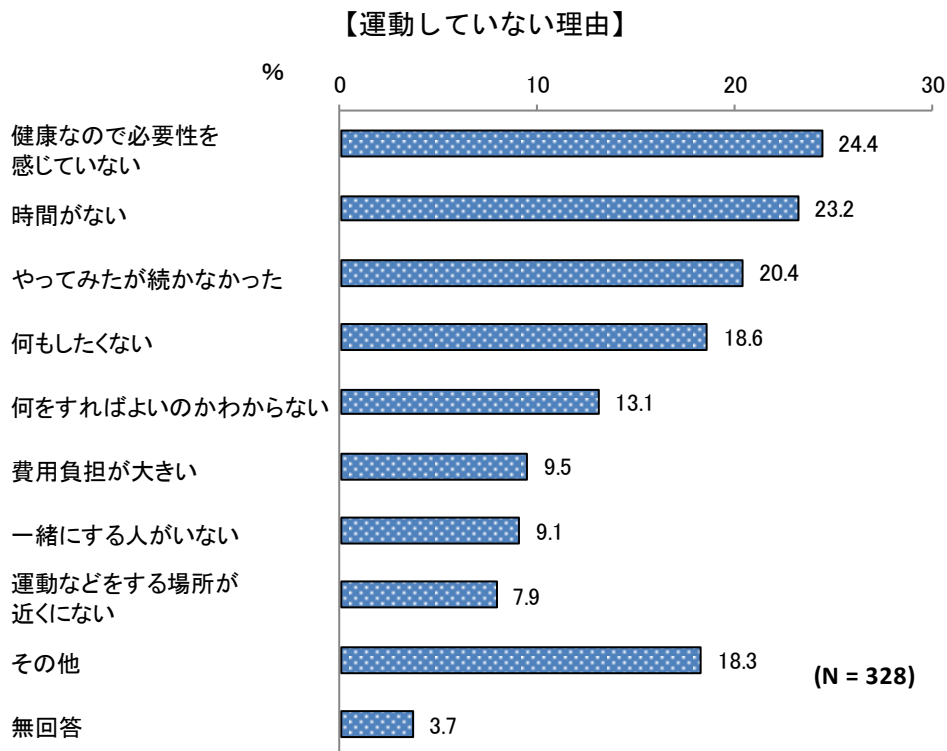
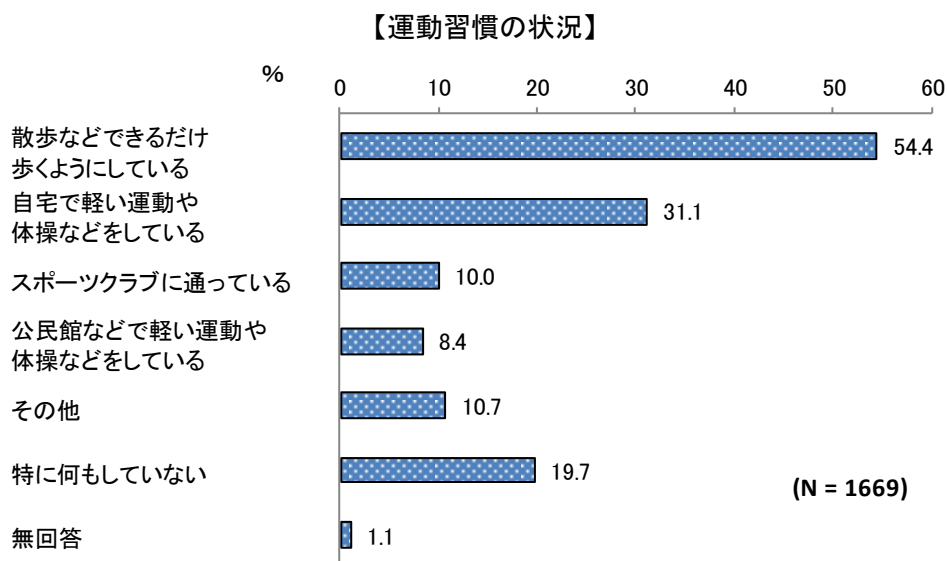


(2) 健康づくりや介護予防 (問 12-1・問 12-5・問 25)

◇運動習慣の状況は、「散歩などできるだけ歩くようにしている」が54.4%で最も高く、次いで「自宅で軽い運動や体操などを行っている」が31.1%、「特に何もしていない」が19.7%となっている。

◇運動を何もしていない理由としては、「健康なので必要性を感じていない」が24.4%で最も高く、次いで「時間がない」が23.2%、「やってみたが続かなかった」が20.4%となっている。

◇健康づくりや介護予防で福岡市に力を入れてほしいことは、「認知症予防についての取組み」が48.8%で最も高く、次いで「体力や筋力の維持・向上のための取組み」が43.8%、「生きがいづくりのための取組み」が41.2%となっている。



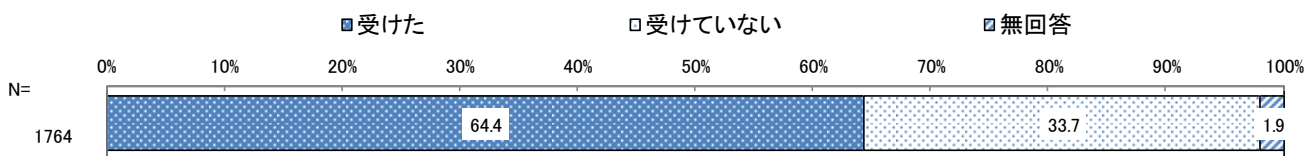
(3) 口腔 (問 14・問 15・問 19)

◇過去 1 年間の歯科定期検診受診の有無は、「受けた」が 64.4%、「受けていない」が 33.7%となっている。

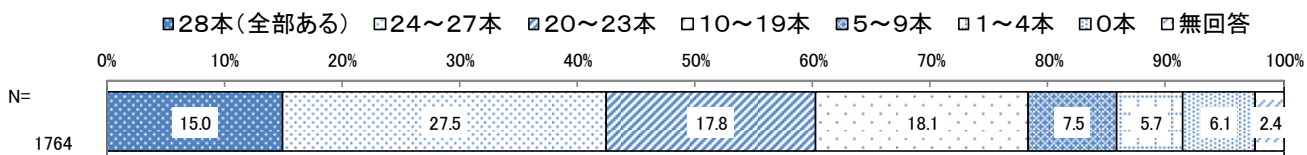
◇歯の本数 (さし歯を含む) は、「24~27本」が 27.5%で最も高く、次いで「10~19本」が 18.1%、「20~23本」が 17.8%となっている。

◇歯みがきの頻度は、「1日2回」が 50.1%で最も高く、次いで「1日3回以上」が 25.8%、「1日1回」が 20.5%となっている。

【歯科の定期健診受診の有無】



【歯の本数】



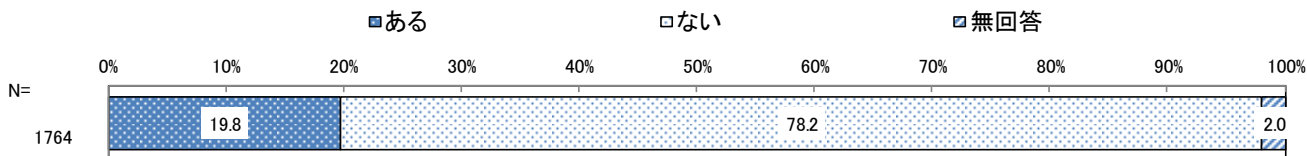
(4) 認知症 (問 21・問 22・問 24)

◇認知症への不安は、「ある」が19.8%、「ない」が78.2%となっている。

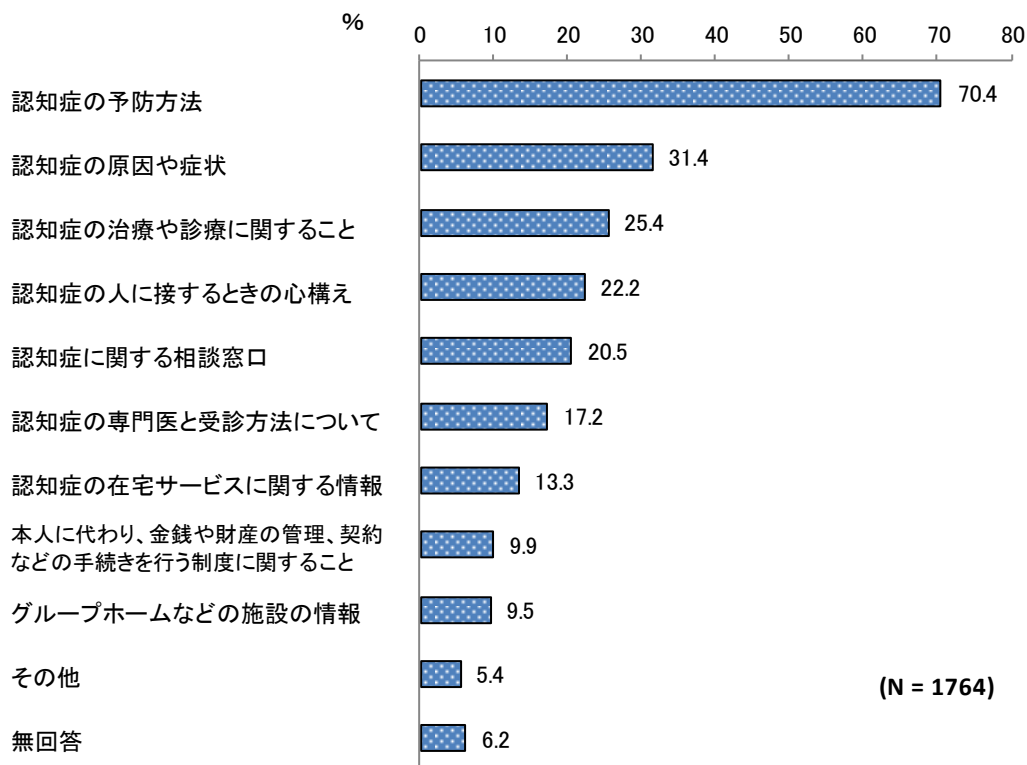
◇認知症に関して知りたい内容は、「認知症の予防方法」が70.4%で最も高く、次いで「認知症の原因や症状」が31.4%、「認知症の治療や診療に関すること」が25.4%となっている。

◇福岡市が認知症の人にとって暮らし続けることができるまちであるかの認識は、「そう思う」が45.7%、「そう思わない」が40.1%となっている。

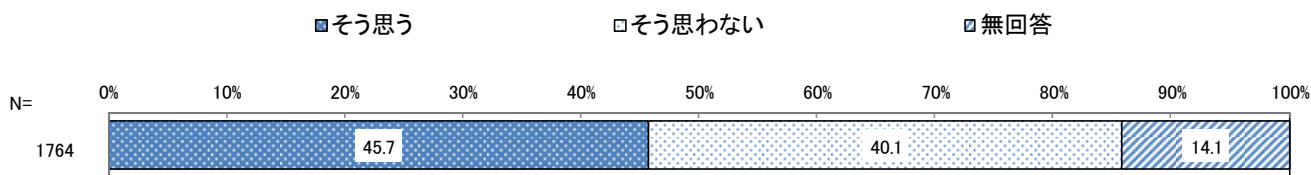
【認知症の不安の有無】



【認知症に関して知りたい内容】



【福岡市が認知症の人にとって暮らし続けることができるまちであるかの認識】

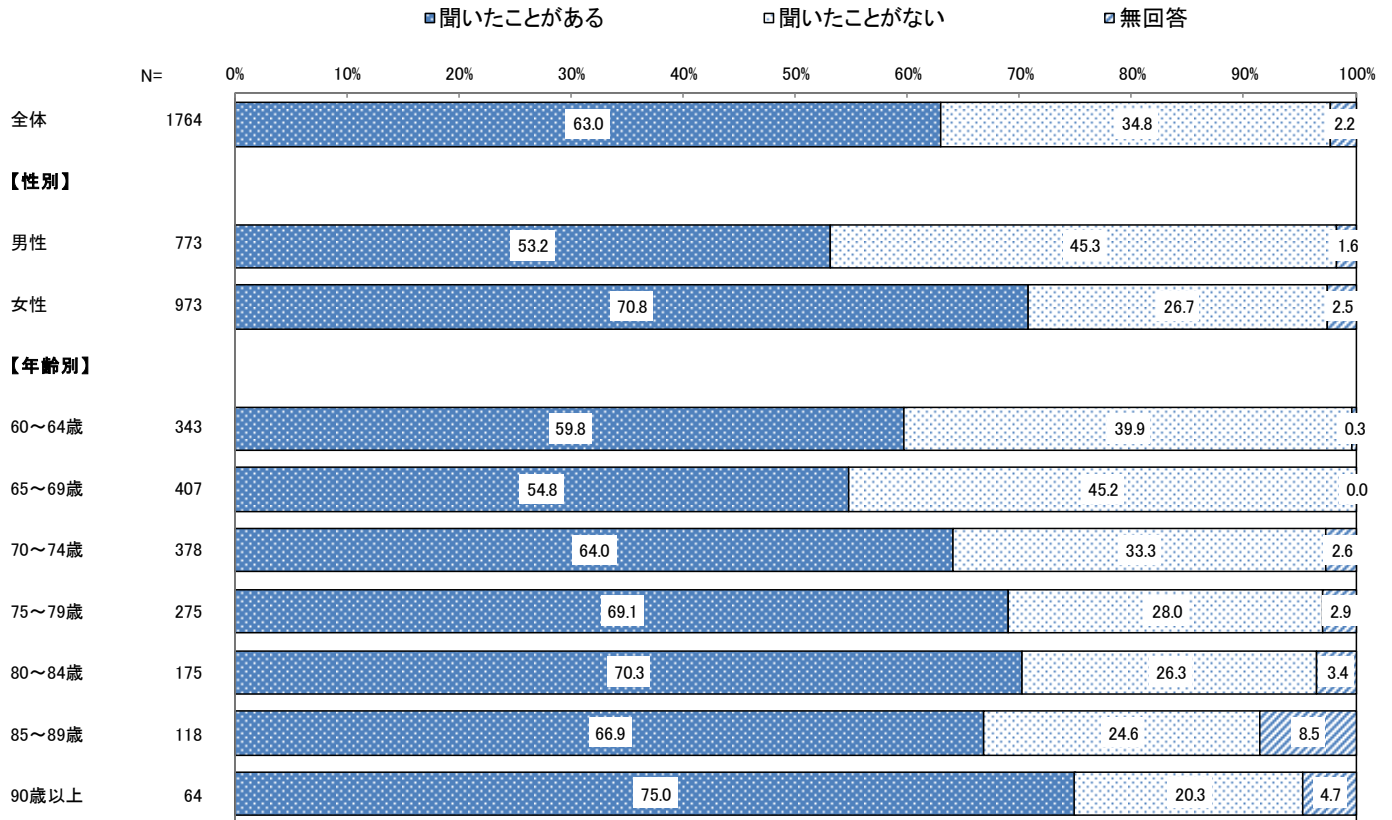


3. 医療・福祉

(1) いきいきセンターふくおか（地域包括センター）（問 26）

◇いきいきセンターふくおかについて、「聞いたことがある」が63.0%、「聞いたことがない」が34.8%となっている。

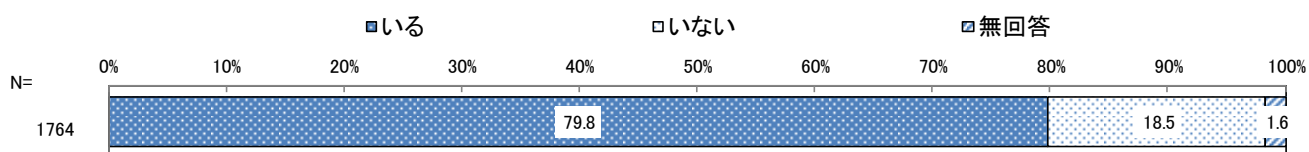
【「いきいきセンターふくおか」の認知度】



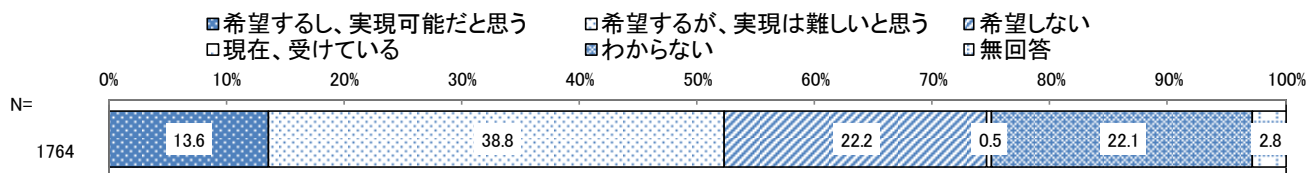
(2) 在宅医療（問 30・問 31・問 33・問 33-1・問 34）

◇かかりつけ医の有無は、「ある」が79.8%、「いない」が18.5%となっている。
 ◇在宅医療への関心は、「ある」が59.5%、「ない」が36.6%となっている。
 ◇在宅医療の希望は、「希望するし、実現可能だと思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」を合わせた『希望する』が52.4%、「希望しない」が22.2%となっている。
 ◇在宅医療を希望しないまたは実現が難しい理由は、「家族に負担をかけるから」が41.9%で最も高く、次いで「介護してくれる家族がないから」が8.9%となっている。
 ◇最期を迎えたい場所は、「医療機関」が35.8%で最も高く、次いで「自宅(親族の家を含む)」が29.5%となっている。

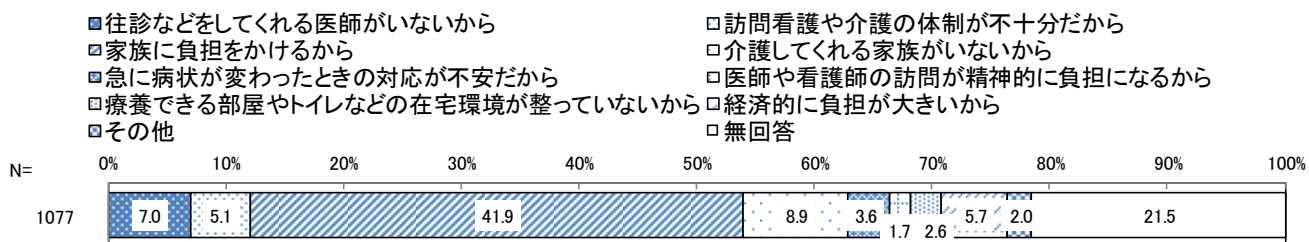
【在宅医療への関心の有無】



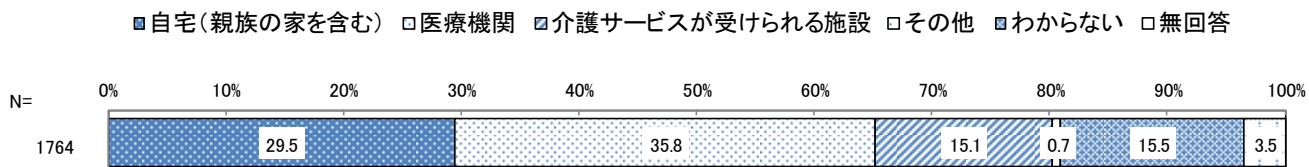
【在宅医療の希望・実現可能性】



【在宅医療を希望しない・実現が難しい理由】



【最期を迎えたい場所】

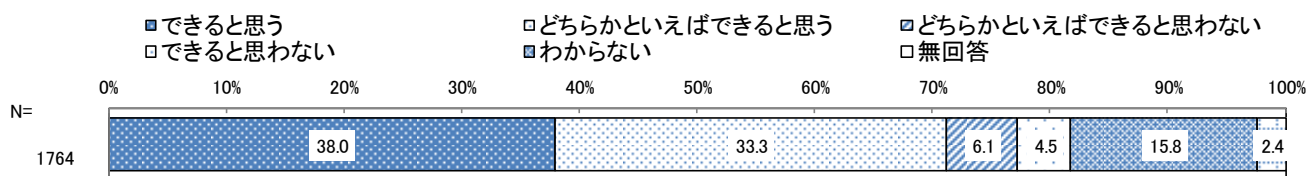


(3) 今後の介護意向 (問 35・問 36)

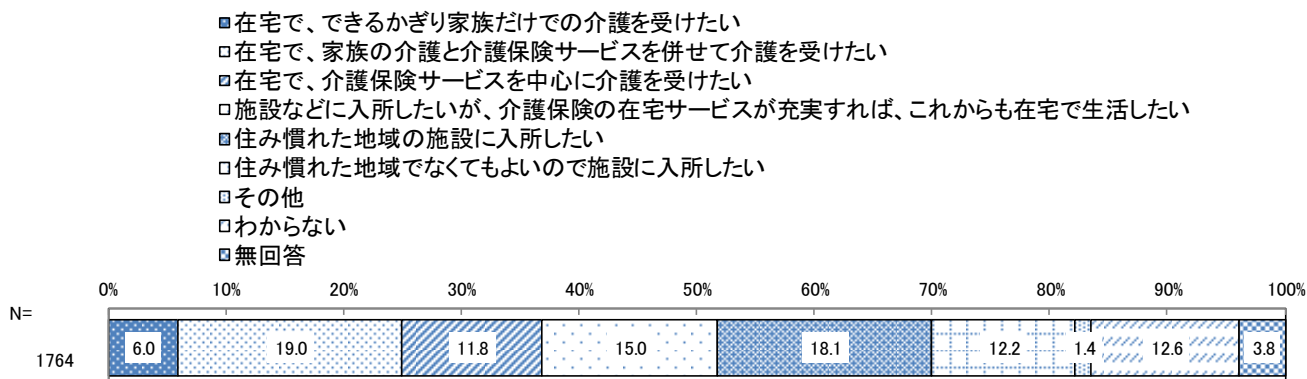
◇これから年齢を重ねても、住み慣れた地域で暮らし続けることができると思うかは、「できると思う」が38.0%、「どちらかといえばできると思う」が33.3%で、これらを合わせた『できると思う』が71.3%となっている。

◇介護が必要になったときは、「在宅で、できるかぎり家族だけでの介護を受けたい」、「在宅で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい」、「在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい」、「施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で生活したい」を合わせた『在宅で生活したい』が51.8%と半数を超えている。

【住み慣れた地域で暮らし続けることができると思うか】



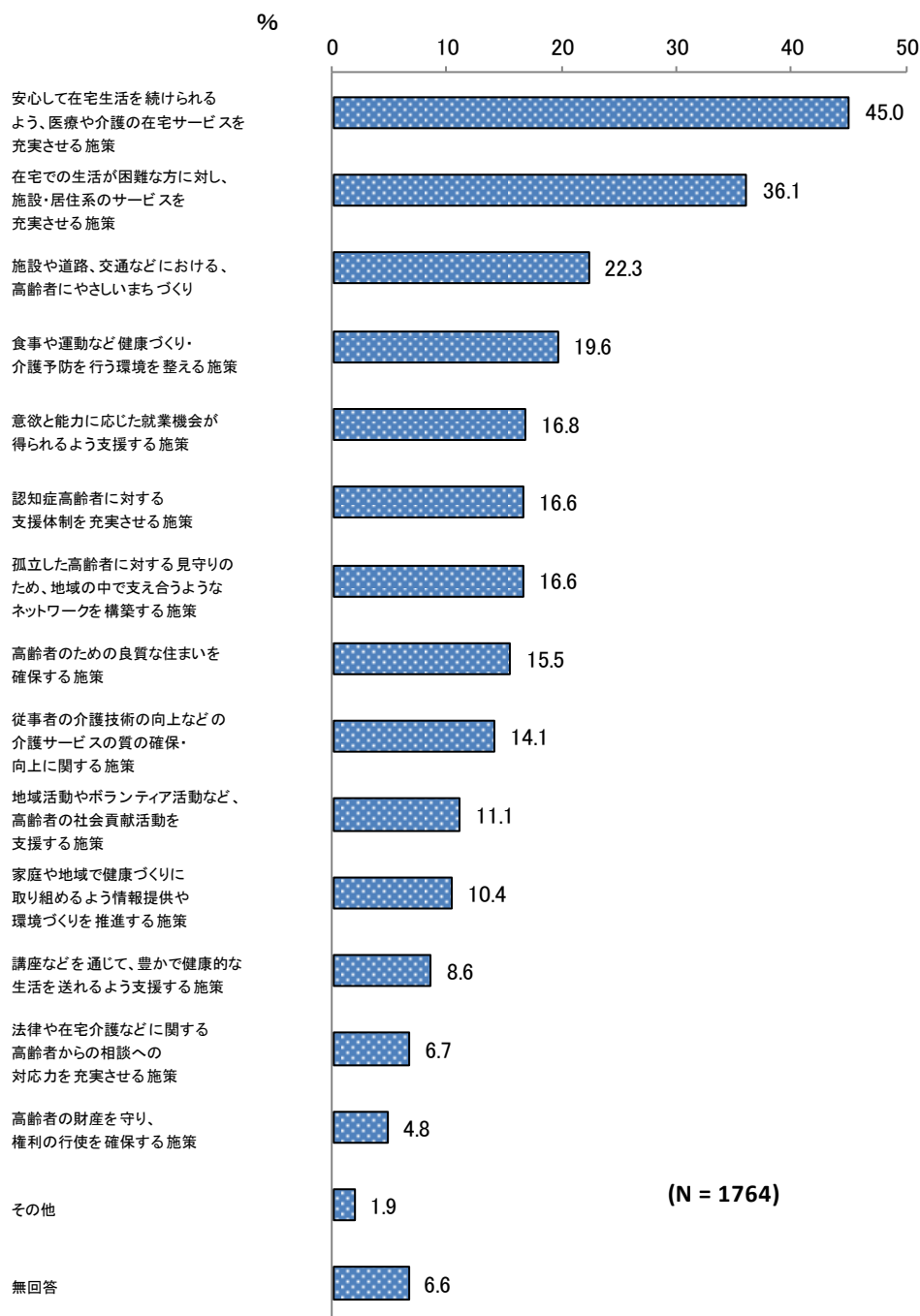
【今後の介護の受け方】



(4) 行政への要望

◇行政に力をいれてほしい高齢者に関する施策の内容は、「安心して在宅生活を続けられるよう、医療や介護の在宅サービスを充実させる施策」が45.0%で最も高く、次いで「在宅での生活が困難な方に対し、施設・居住系のサービスを充実させる施策」が36.1%、「施設や道路、交通などにおける、高齢者にやさしいまちづくり」が22.3%となっている。

【行政に力を入れてほしい高齢者に関する施策の内容】



第4章 介護サービス調査共通設問

「在宅サービス利用者調査」「在宅サービス未利用者調査」「施設等サービス利用者調査」の3つの調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるよう「共通設問」として掲載した。

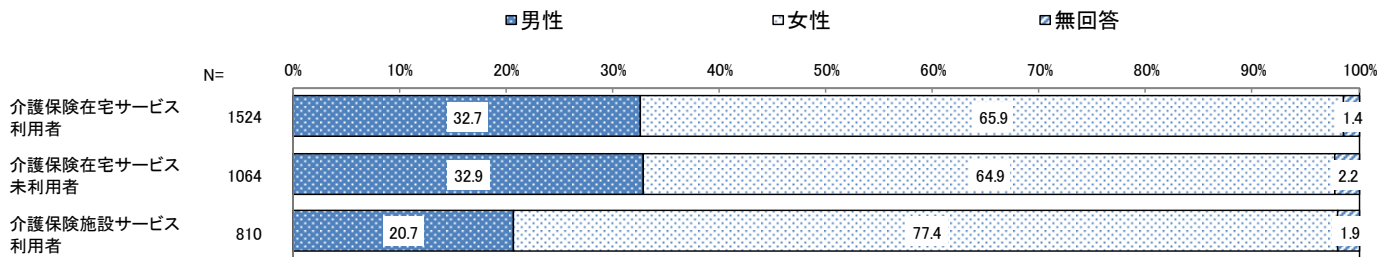
1. 回答者の属性

(1) 性別・年齢（利用者：問2・問3、未利用者：問2・問3、施設：問2・問3）

◇回答者の性別は、在宅サービス利用者では「男性」が32.7%、「女性」が65.9%、在宅サービス未利用者では「男性」が32.9%、「女性」が64.9%、施設等サービス利用者では「男性」が20.7%、「女性」が77.4%となっている。

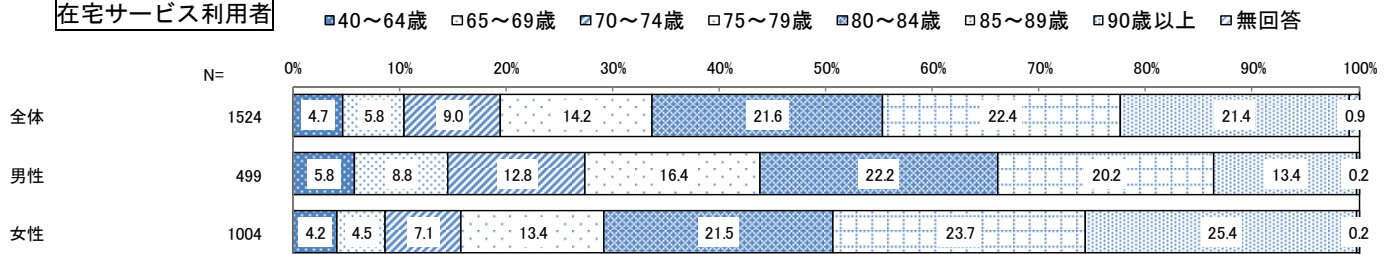
◇75歳以上の後期高齢者の割合は、在宅サービス利用者では79.6%、在宅サービス未利用者では84.5%、施設等サービス利用者では87.3%となっている。

【性別】

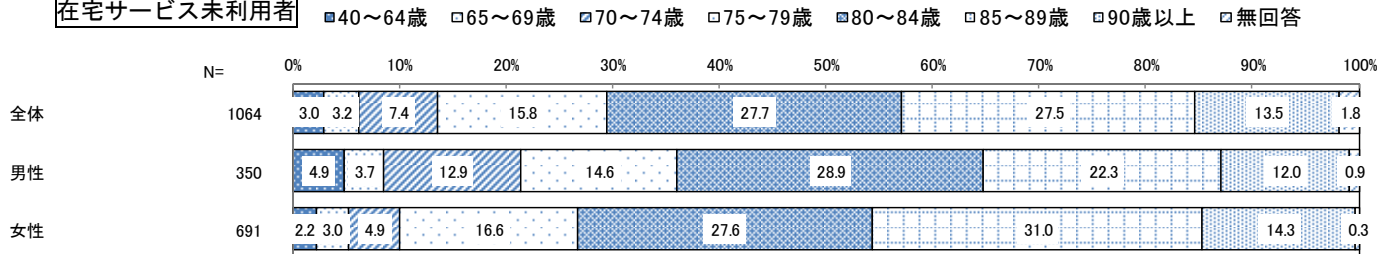


【年齢（性別）】

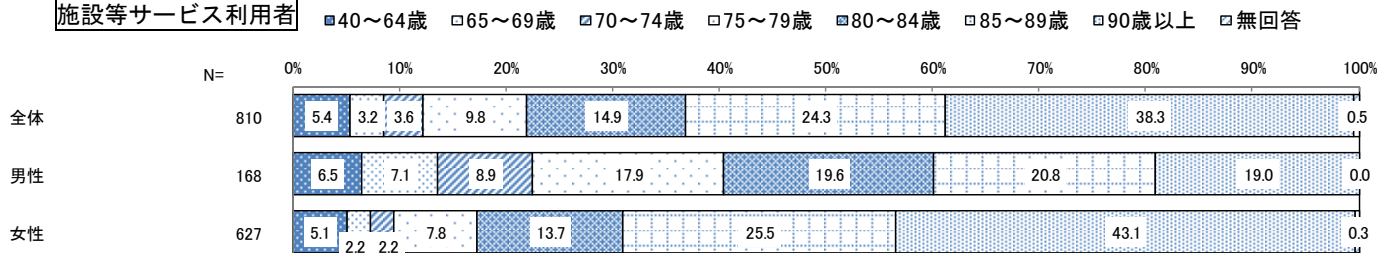
在宅サービス利用者



在宅サービス未利用者



施設等サービス利用者

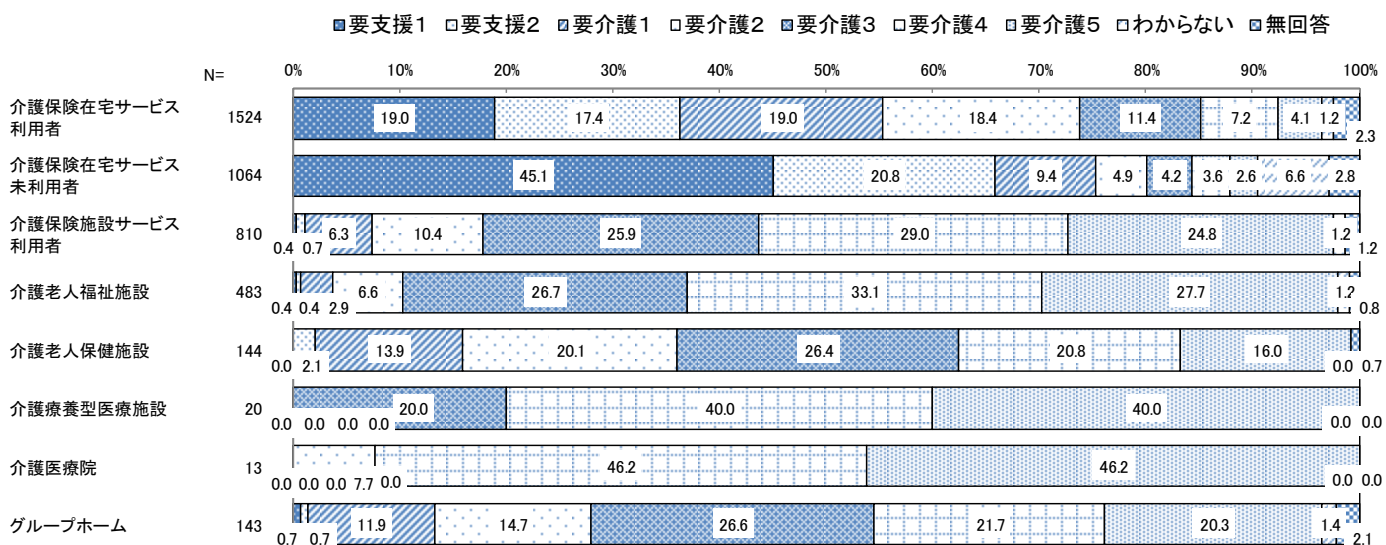


(2) 要介護度 (利用者：問7、未利用者：問7、施設：問4)

◇回答者の要介護度は、在宅サービス利用者と在宅サービス未利用者ともに要介護度が軽い人が半数を超えており、「要支援1」「要支援2」「要介護1」を合わせた『要介護1以下』が、在宅サービス利用者では55.4%、在宅サービス未利用者では75.3%となっている。

◇施設等サービス利用者では要介護度が重い人が多く、「要介護3」「要介護4」「要介護5」を合わせた『要介護3以上』が79.7%となっている。施設別にみると、『要介護3以上』は、介護老人福祉施設が87.5%、介護療養型医療施設が100.0%、介護医療院が92.4%と特に高くなっている。

【要介護度】

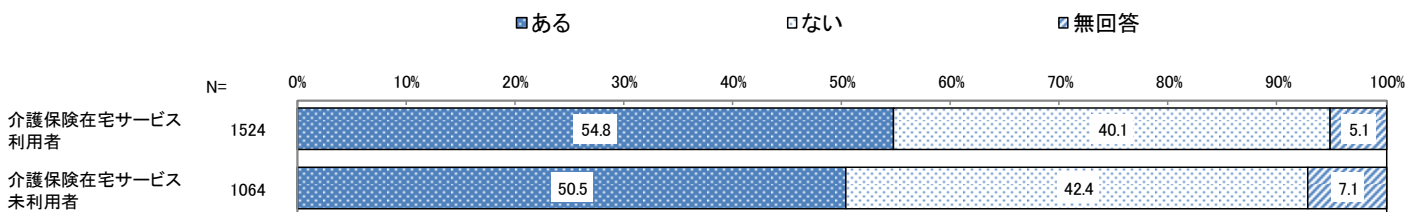


2. 在宅医療

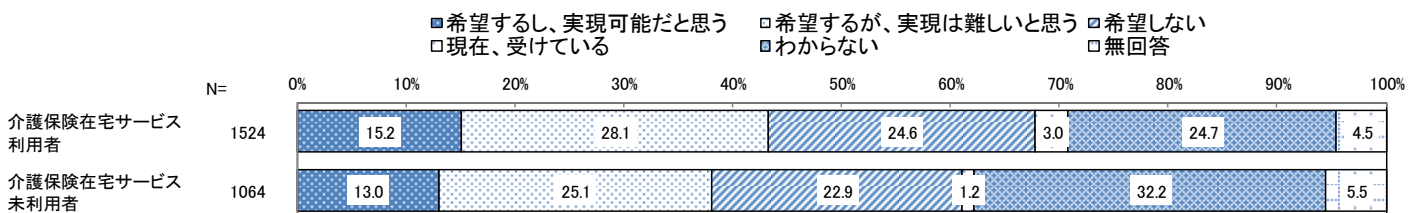
(利用者：問 19・問 20・問 22・問 22-1・問 24、未利用者：問 24・問 25・問 27・問 27-1・問 28、施設：問 13)

- ◇かかりつけ医の有無は、「いる」が在宅サービス利用者では 94.9%、在宅サービス未利用者では 92.6%となっている。
- ◇在宅医療への関心は、「ある」が在宅サービス利用者では 54.8%、在宅サービス未利用者では 50.5%となっている。
- ◇在宅医療の希望は、「希望するし、実現可能だと思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」を合わせた『希望する』が、在宅サービス利用者では 43.3%、在宅サービス未利用者では 38.1%となっている。また、「希望しない」が在宅サービス利用者では 24.6%、在宅サービス未利用者では 22.9%となっている。
- ◇在宅医療を希望しないまたは実現が難しいと思う理由は、「家族に負担をかけるから」が在宅サービス利用者で 32.5%、在宅サービス未利用者で 31.5%とそれぞれ最も高く、次いで在宅サービス利用者では「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が 12.7%、在宅サービス未利用者では「介護をしてくれる家族がないから」が 12.9%となっている。
- ◇最期を迎えたい場所は、在宅サービス利用者では「自宅（家族や親族の家を含む）」が 28.8%で最も高く、次いで「医療機関」が 28.1%となっており、在宅サービス未利用者では「医療機関」が 35.5%で最も高く、次いで「自宅（家族や親族の家を含む）」が 27.5%となっている。施設等サービス利用者では、「現在、入っている施設」が 47.2%と約半数を占めている。

【在宅医療への関心の有無】

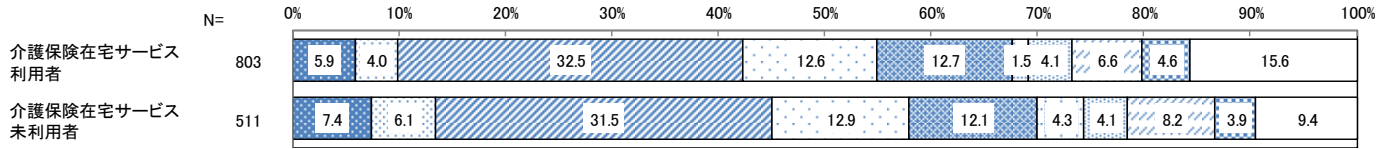


【在宅医療の希望・実現可能性】



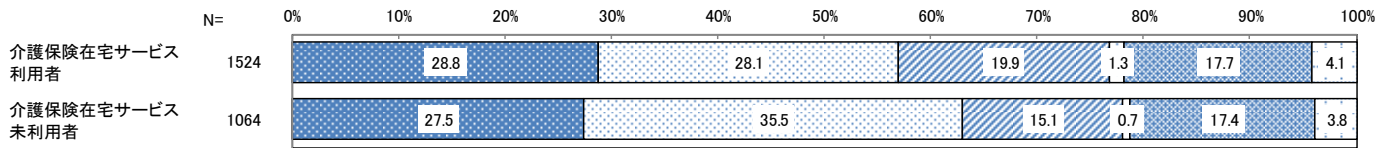
【在宅医療を希望しない・実現が難しい理由】

- 往診などしてくれる医師がないから
- 家族に負担をかけるから
- 急に病状が変わったときの対応が不安だから
- 療養できる部屋やトイレなどの住宅環境が整っていないから
- その他
- 訪問看護や介護の体制が不十分だから
- 介護してくれる家族がないから
- 医師や看護師の訪問が精神的負担になるから
- 経済的に負担が大きいため
- 無回答

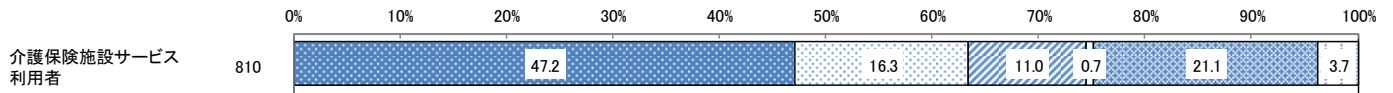


【最期を迎えたい場所】

- 自宅(家族や親族の家を含む)
- 医療機関
- 介護サービスが受けられる施設
- その他
- わからない
- 無回答



- 現在、入っている施設
- 医療機関
- 自宅(家族や親族の家を含む)
- その他
- わからない
- 無回答



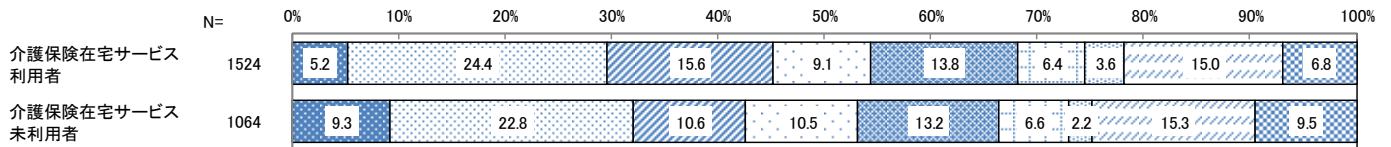
3. 今後どのように介護を受けたいか

(利用者：問 23、未利用者：問 34)

◇今後の介護の受け方は、「在宅で、できるかぎり家族や親族だけでの介護を受けたい」「在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい」「在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい」「施設などに入所したいが、介護保険サービスが充実すれば、これからも在宅で生活したい」を合わせた『在宅で生活したい』の割合が在宅サービス利用者では 54.3%、在宅サービス未利用者では 53.2%となっている。

【今後の介護の受け方（本人）】

- 在宅で、できるかぎり家族や親族だけでの介護を受けたい
- 在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい
- 在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい
- 施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で生活したい
- 住み慣れた地域の施設に入所したい
- 住み慣れた地域でなくてもよいので施設に入所したい
- その他
- わからない
- 無回答



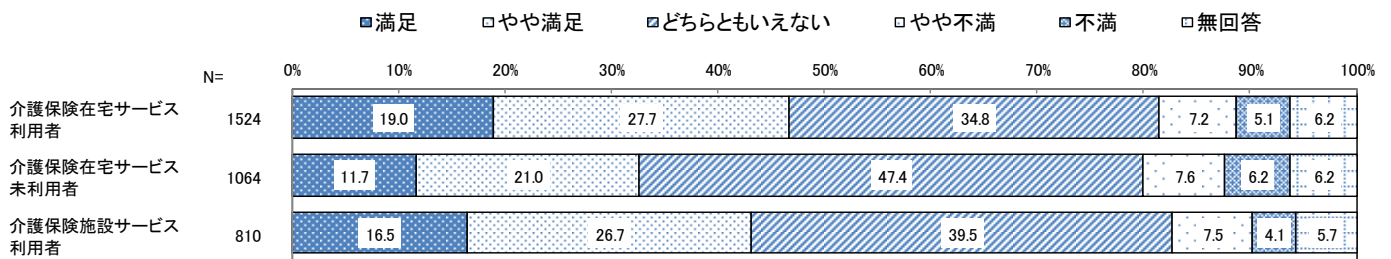
4. 介護保険制度

(利用者：問 28・問 29、未利用者：問 29・問 30、施設：問 21・問 22)

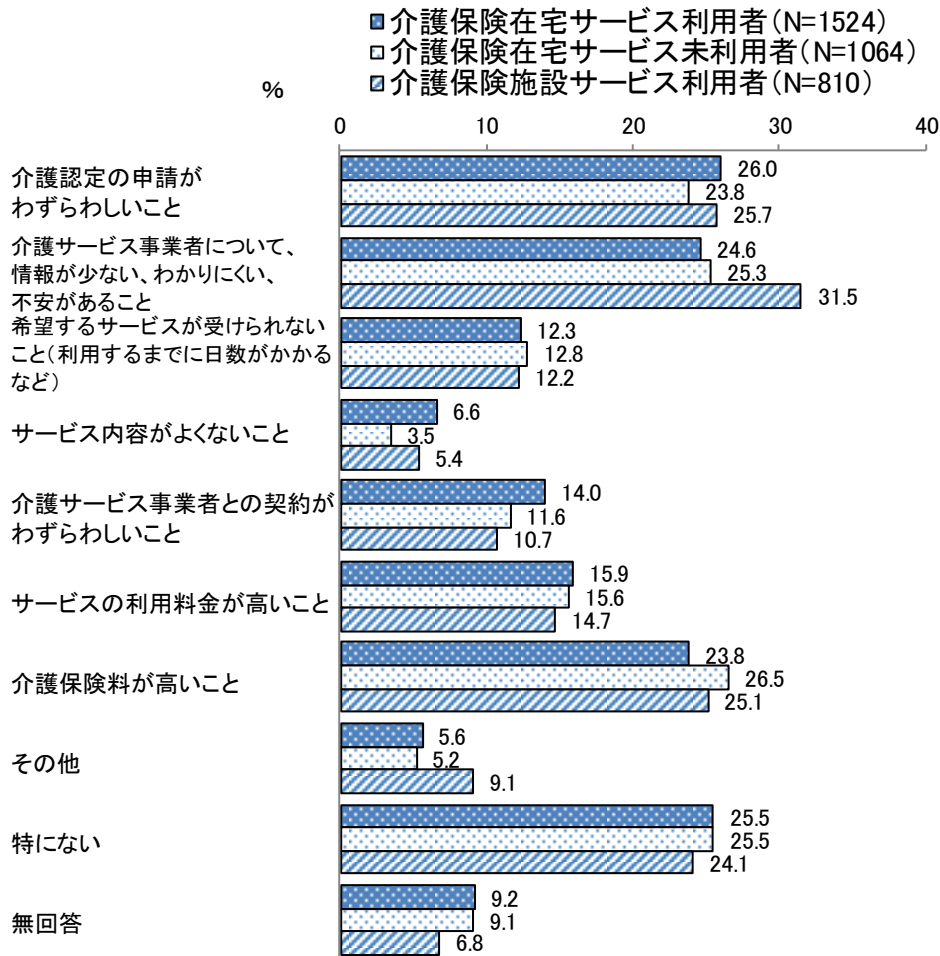
◇介護保険制度全体の満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が在宅サービス利用者では46.7%、在宅サービス未利用者が32.7%、施設等サービス利用者では43.2%となっている。

◇介護保険制度で不満に思うことは、在宅サービス利用者では「介護認定の申請がわずらわしいこと」が、在宅サービス未利用者では「介護保険料が高いこと」が、施設等サービス利用者では「介護サービス事業者について、情報が少ない、わかりにくい、不安があること」がそれぞれ最も高くなっている。

【介護保険制度全体の満足度】



【介護保険制度で不満に思うこと】



5. 介護者

「在宅サービス利用者調査」「在宅サービス未利用者調査」の2調査において、主に介護をしている方の状況も回答してもらった。

(1) 介護者の属性

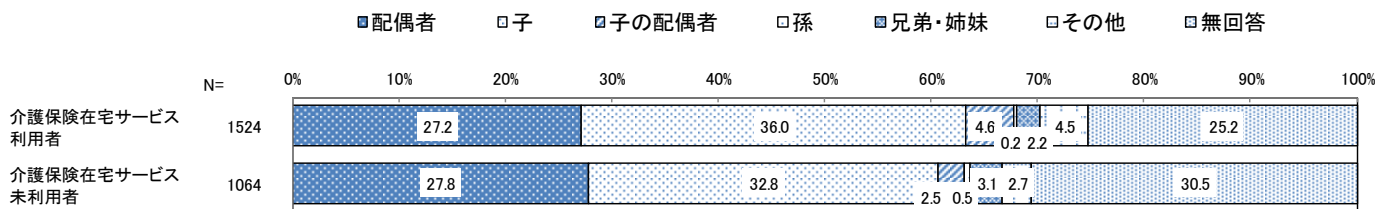
(利用者：問 35・問 36・問 37・問 38、未利用者：問 35・問 36・問 37・問 38)

◇主な介護者の続柄は、在宅サービス利用者、在宅サービス未利用者ともに、「子」が最も高く、次いで「配偶者」となっている。

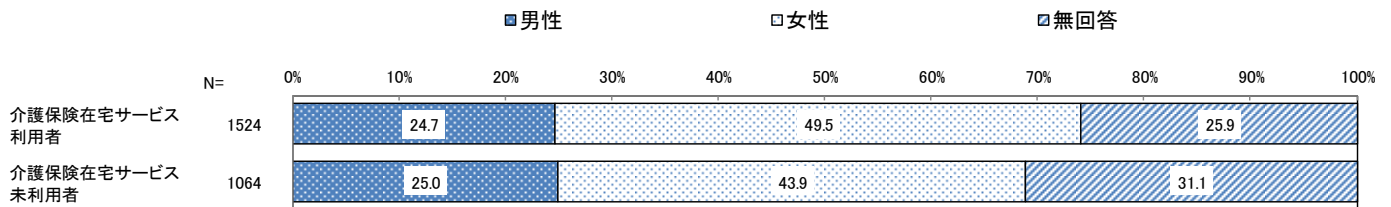
◇主な介護者の同居状況は、在宅サービス利用者では「同居」が51.0%、「別居」が23.1%、在宅サービス未利用者では「同居」が50.0%、「別居」が19.0%となっている。

◇主な介護者の年齢は、『60代以上』が、在宅サービス利用者では54.5%、在宅サービス未利用者では47.7%となっており、ともに約5割となっている。

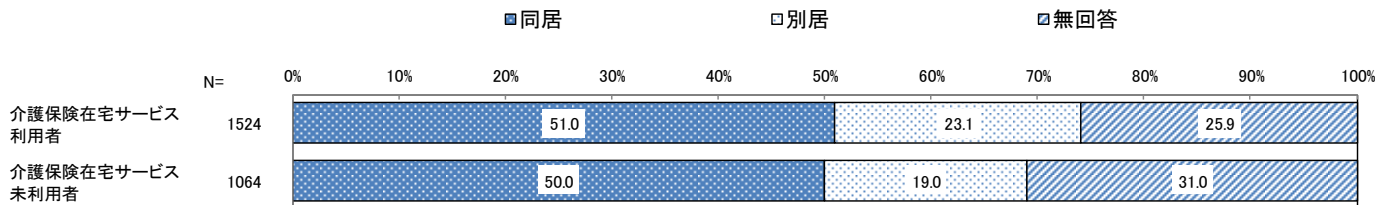
【主な介護者の続柄】



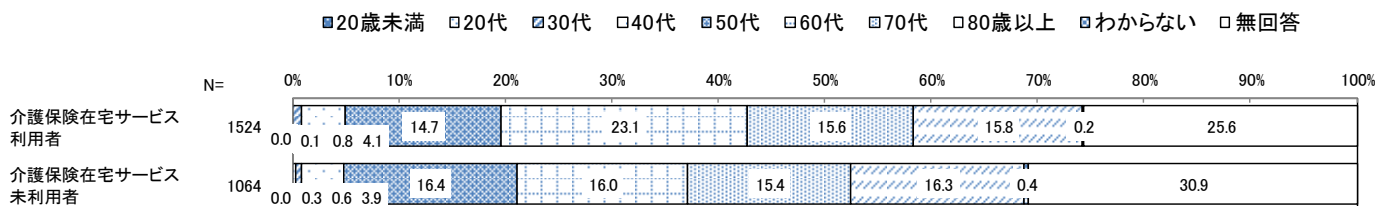
【主な介護者の性別】



【主な介護者の同居状況】



【主な介護者の年齢】



(2) 介護者の就業

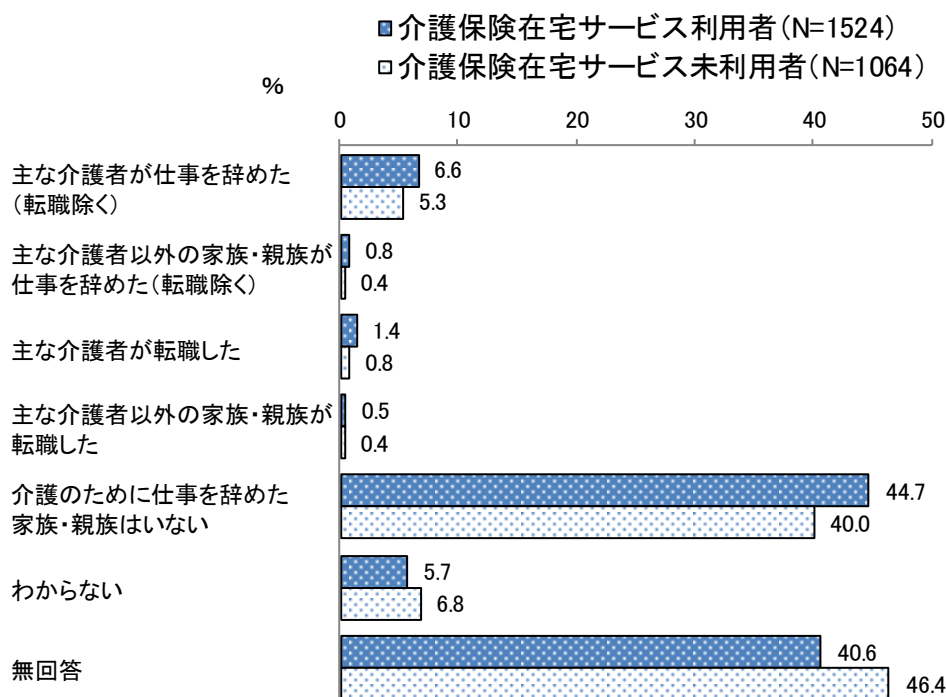
(利用者：問 39・問 40・問 40-3、未利用者：問 39・問 40・問 40-3)

◇介護離職の状況は、在宅サービス利用者、在宅サービス未利用者ともに「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が最も高くなっており、約4割となっている。

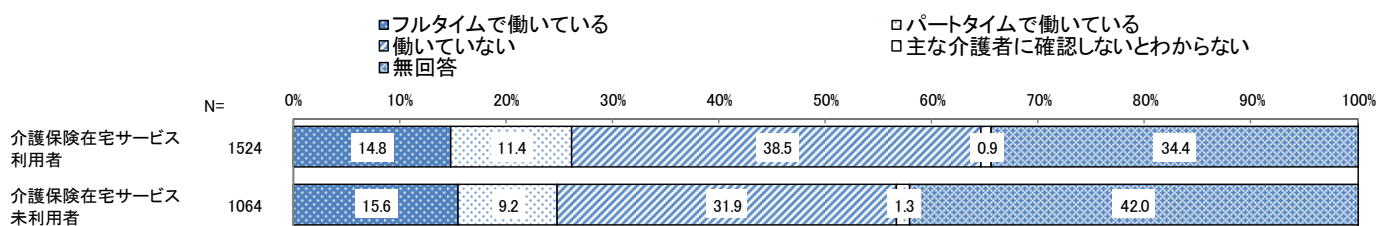
◇主な介護者の勤務形態は、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』が、在宅サービス利用者では26.2%、在宅サービス未利用者では24.8%となっている。

◇主な介護者の仕事と介護の両立継続可能性は、「問題はあるが、何とか続けていける」が在宅サービス利用者で49.1%、在宅サービス未利用者で52.7%と、ともに最も高くなってきている。

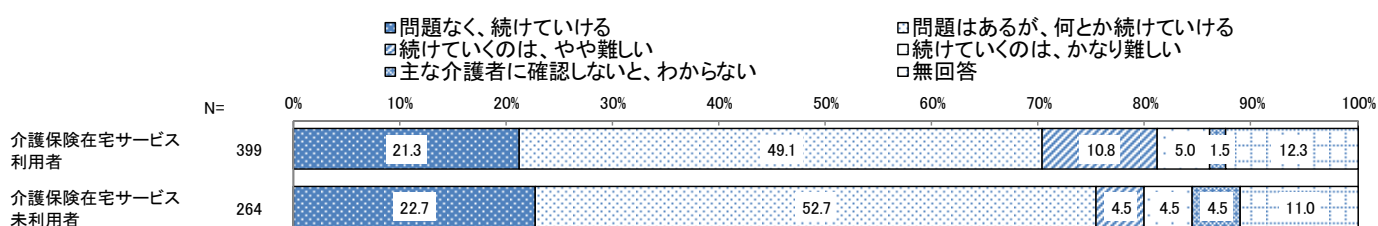
【介護離職の状況】



【主な介護者の勤務形態】



【主な介護者の仕事と介護の両立の継続可能性】



(3) 今後の介護の仕方

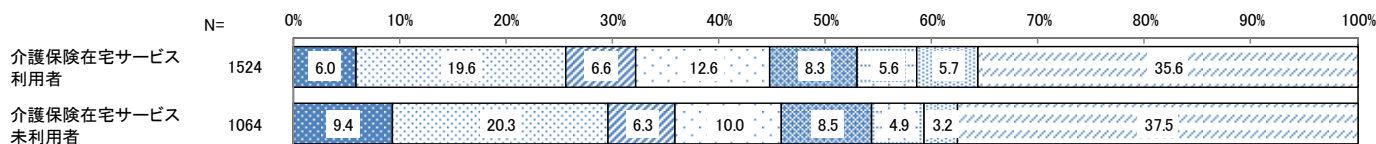
(利用者：問 45・問 46、未利用者：問 44・問 45)

◇今後の介護の仕方は、『在宅で介護したい』(「在宅で、できるかぎり家族や親族だけで介護したい」「在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護したい」「在宅で、介護保険サービスを中心に介護したい」「施設への入所も検討するが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で介護したい」の合計)が、在宅サービス利用者では 44.8%、在宅サービス未利用者では 46.0% となっている。

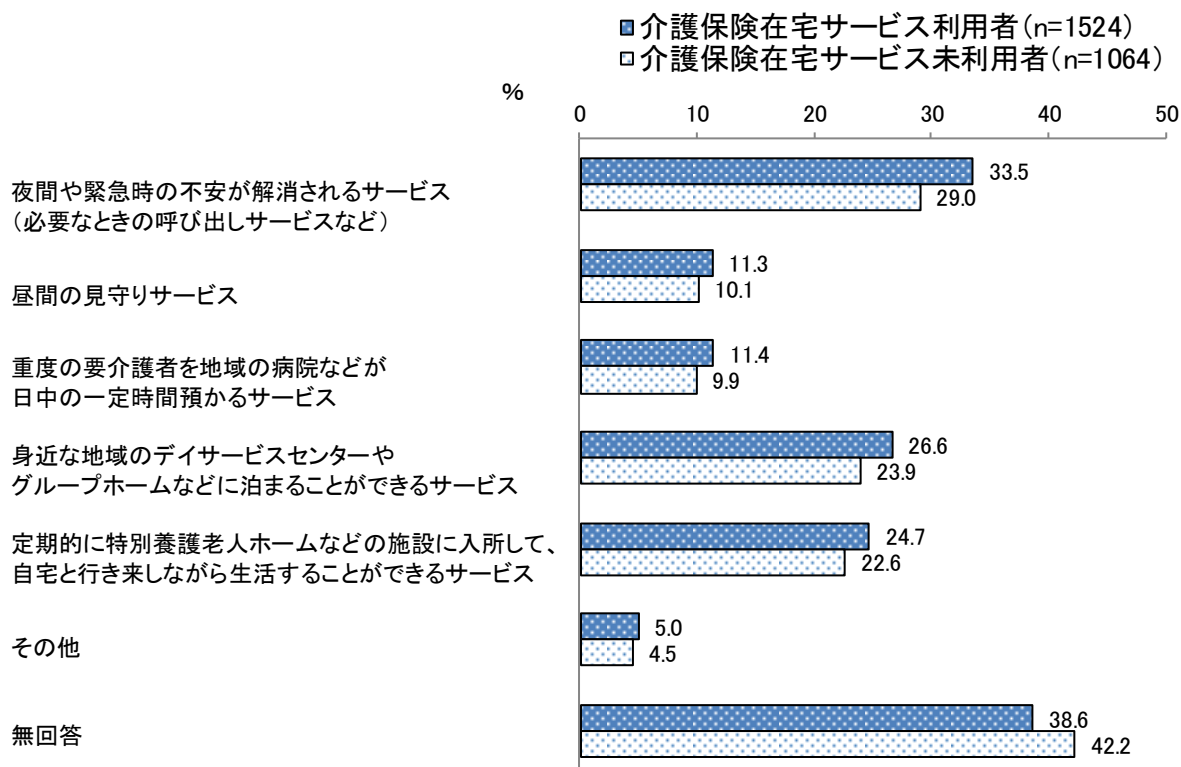
◇在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスの内容は、「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス(必要なときの呼び出しサービスなど)」が在宅サービス利用者で 33.5%、在宅サービス未利用者で 29.0%と、ともに最も高くなっている。

【今後の介護の仕方】

- 在宅で、できるかぎり家族や親族だけで介護したい
- 在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護したい
- 在宅で、介護保険サービスを中心に介護したい
- 施設への入所も検討するが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で介護したい
- あて名の方ご本人(介護が必要な方)が住み慣れた地域にある施設への入所を、あて名の方ご本人と考えたい
- あて名の方ご本人(介護が必要な方)が住み慣れた地域にある施設にかぎらず、施設への入所を、あて名の方ご本人と考えたい
- その他
- 無回答



【在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスの内容】



第5章 介護保険在宅サービス利用者調査

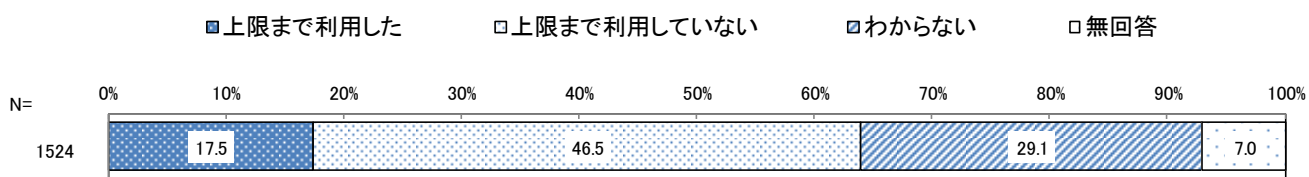
1. 介護保険サービスの利用状況

(問18・問18-1)

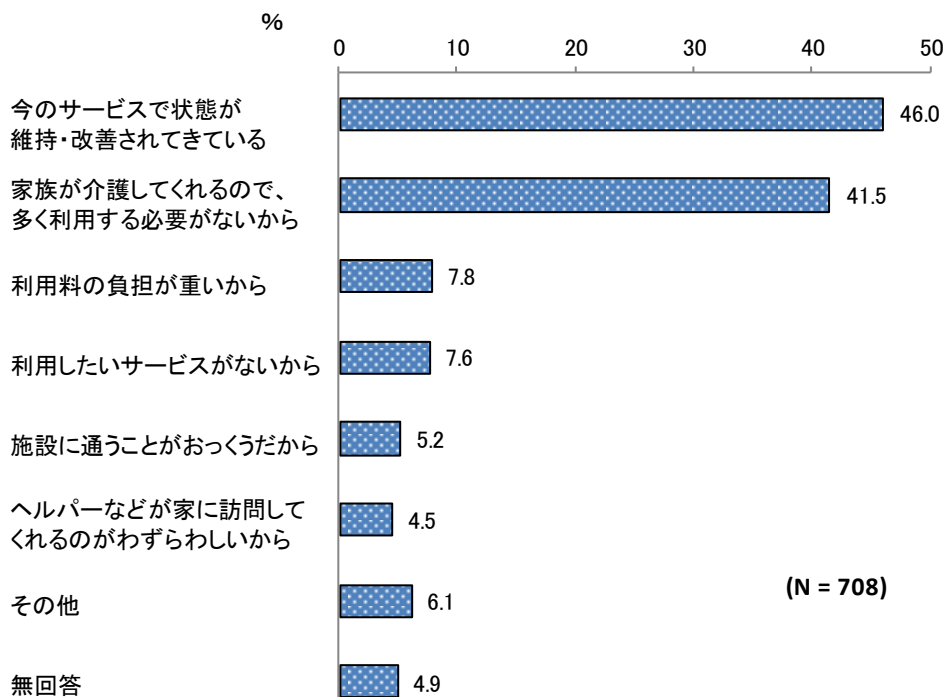
◇介護保険サービスの利用状況は、「上限まで利用していない」が46.5%、「上限まで利用した」が17.5%となっている。

◇利用額上限まで利用していない理由としては、「今のサービスで状態が維持・改善されてきている」が46.0%で最も高く、次いで「家族が介護してくれるので、多く利用する必要がないから」が41.5%となっている。

【利用額上限までの利用有無】



【利用額の上限まで利用していない理由】

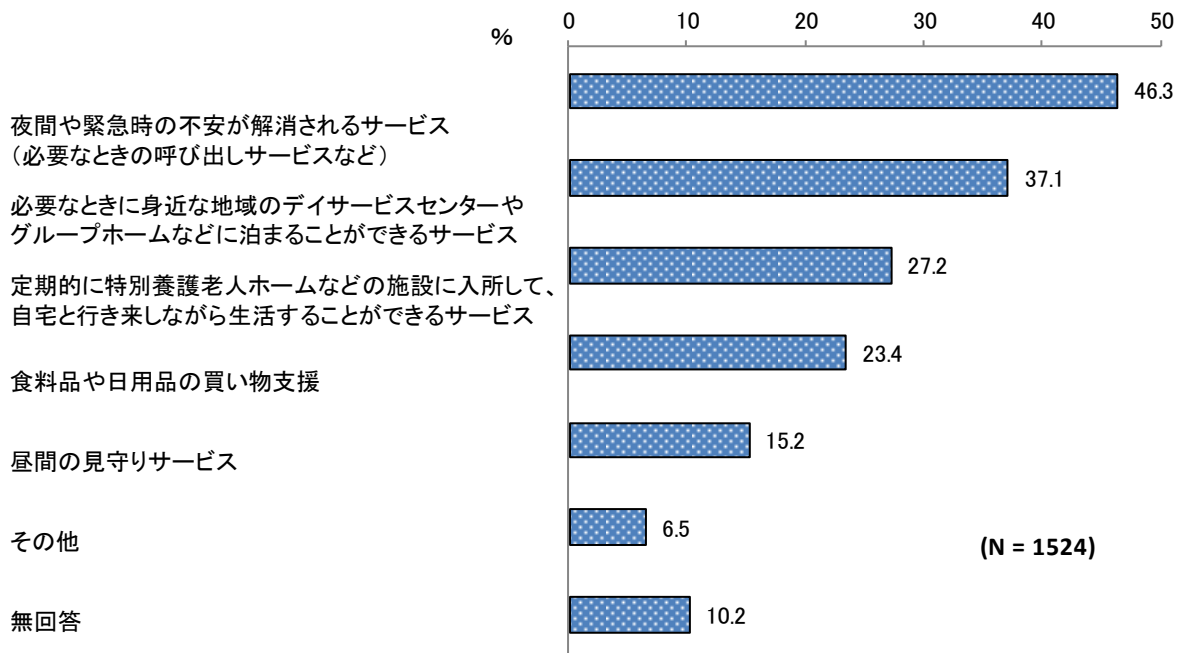


2. 在宅で生活するために必要性が高いサービス

(問 25)

◇在宅で生活するために必要性が高いと思うサービスは、「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス（必要なときの呼び出しサービスなど）」が46.3%で最も高く、次いで「必要なときに身近な地域のデイサービスセンターやグループホームなどに泊まることのできるサービス」が37.1%が続いている。

【在宅生活で必要性が高いサービス】



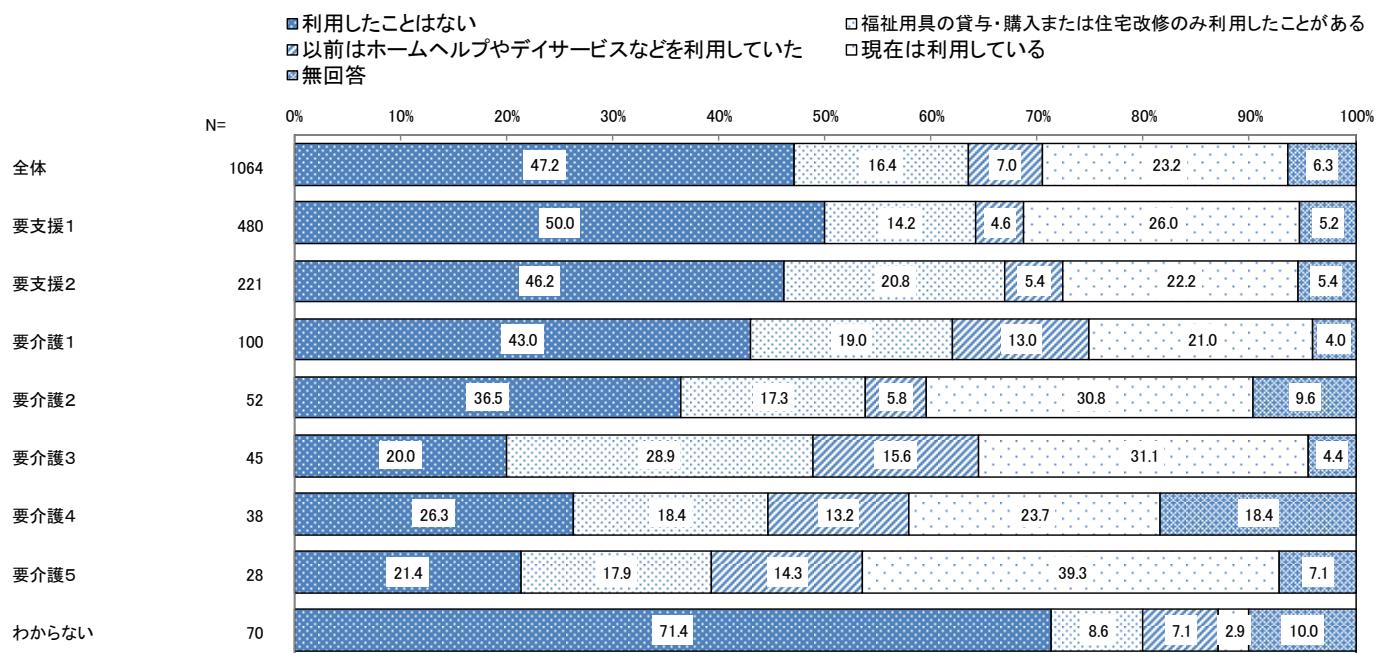
第6章 介護保険在宅サービス未利用者調査

1. 介護保険サービスの利用

(1) 在宅サービスの利用経験（問19）

◇介護保険の在宅サービスの利用経験は、「利用したことはない」が47.2%となっており、特に要支援1で50.0%、要支援2で46.2%と、要介護度が軽いほどその割合が高い傾向にある。

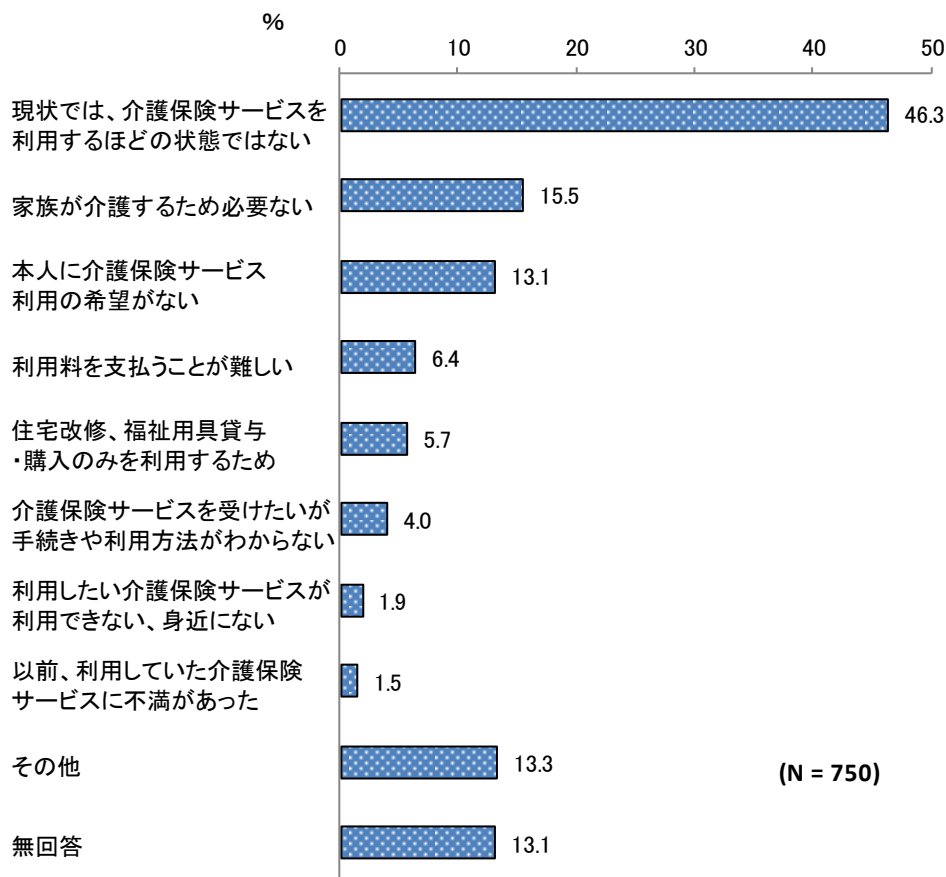
【介護保険の在宅サービスの利用経験】



(2) 在宅サービスを利用していない理由 (問 19-1)

◇在宅サービスを利用していない理由は、「現状では、介護保険サービスを利用するほどの状態ではない」が46.3%で最も高く、次いで「家族が介護するため必要ない」が15.5%、「その他」が13.3%、「本人に介護保険サービス利用の希望がない」が13.1%となっている。

【介護保険の在宅サービスを利用していない理由】



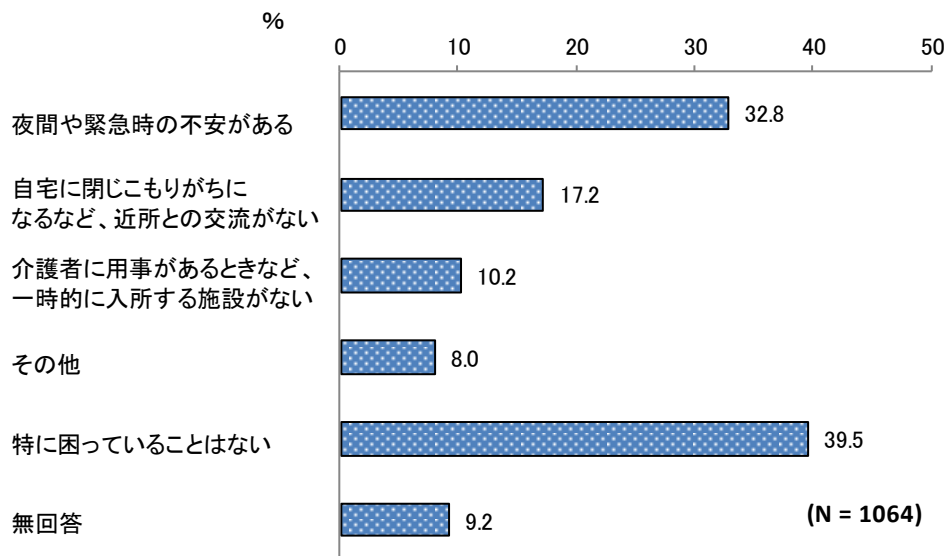
2. 今後の介護サービスの利用

(問 20・問 21)

◇在宅で生活する上で困っていることは、「夜間や緊急時の不安がある」が 32.8%、「自宅に閉じこもりがちになるなど、近所との交流がない」が 17.2%となっている。

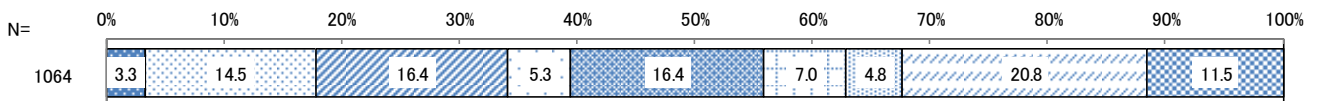
◇今後の介護サービスの利用意向は、「家族介護が困難になったら在宅サービスを利用したい」「今後利用するなら施設サービスを利用したい」がともに 16.4%で最も高く、次いで「要介護度が現在より重くなったら在宅サービスを利用したい」が 14.5%となっている。

【在宅で生活する上で困っていること】



【今後の介護サービスの利用意向】

- 近いうちに在宅サービスを利用することを考えている
- 家族介護が困難になったら在宅サービスを利用したい
- 今後利用するなら施設サービスを利用したい
- その他
- 無回答
- 要介護度が現在より重くなったら在宅サービスを利用したい
- 緊急時に在宅サービスを利用したい
- 将来的にもできるだけ利用したくない
- わからない



第7章 介護保険施設等サービス利用者調査

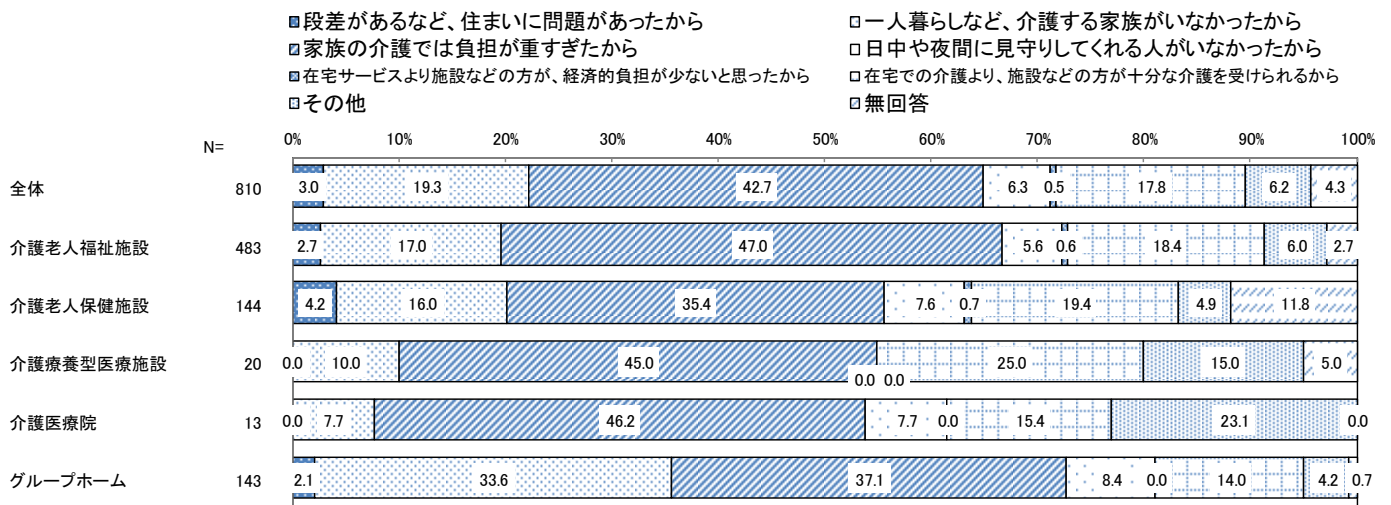
1. 施設等への入所を希望した理由・現在の施設の満足度

(問10・問20)

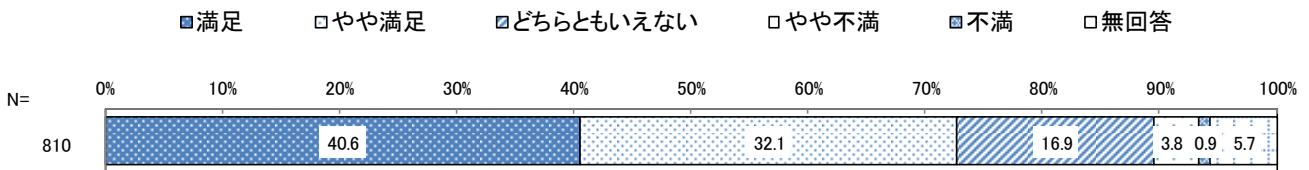
◇施設等への入所を希望した理由は、「家族の介護では負担が重すぎたから」が42.7%で最も高く、次いで「一人暮らしなど、介護する家族がいなかったから」が19.3%、「在宅での介護より、施設などの方が十分な介護を受けられるから」が17.8%となっている。グループホームでは「一人暮らしなど、介護する家族がいなかったから」が33.6%となっており、他施設と比べて高くなっている。

◇現在の施設への満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が72.7%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』が4.7%となっている。

【施設等への入所を希望した理由】



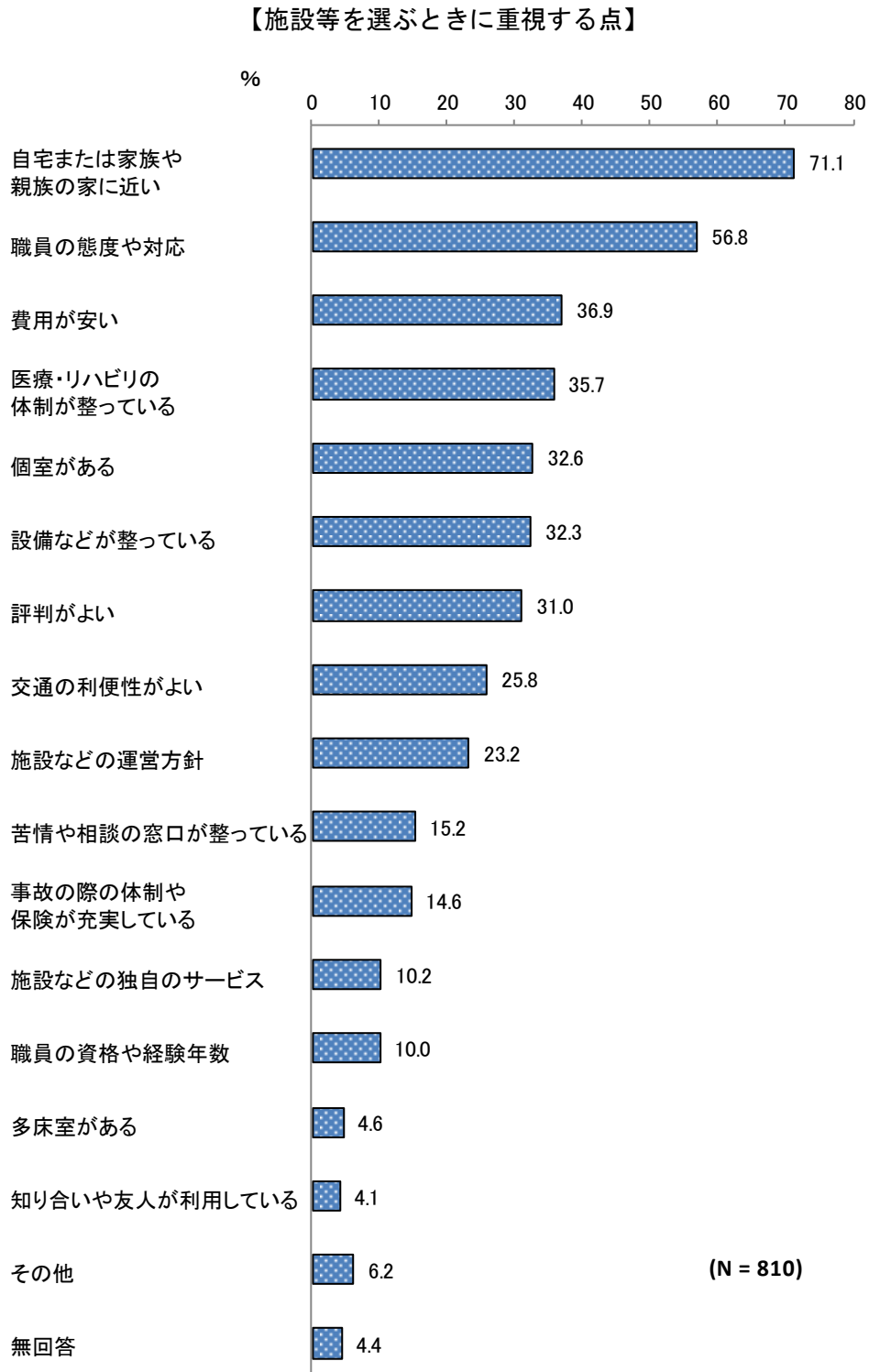
【現在の施設の満足度】



2. 施設等を選ぶときに重視する点

(問 19)

◇施設等を選ぶときに重視する点は、「自宅または家族や親族の家に近い」が71.1%で最も高く、次いで「職員の態度や対応」が56.8%、「費用が安い」が36.9%となっている



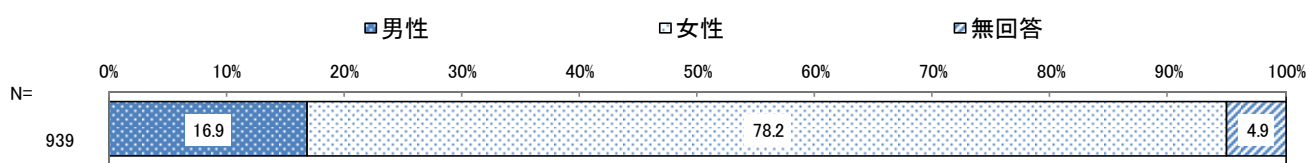
第8章 介護支援専門員調査

1. 回答者の属性

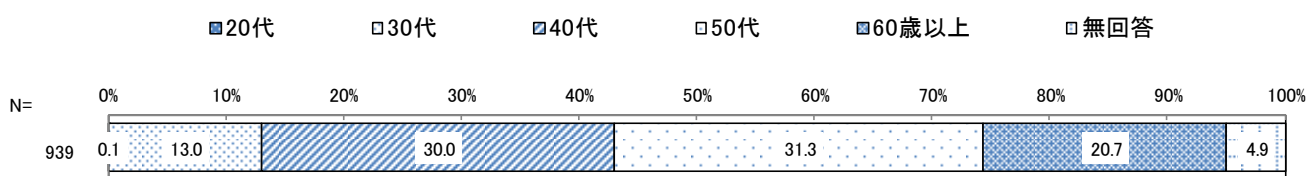
(問1・問2・問3)

◇回答者の性別は、「男性」が16.9%、「女性」が78.2%となっている。
 ◇年齢は、「50代」が31.3%で最も高く、次いで「40代」が30.0%、「60歳以上」が20.7%と続いている。
 ◇介護支援専門員としての経験年数は、「6年以上」が56.9%で最も高く、次いで「3年～6年未満」が21.6%、「1年～2年未満」が6.2%となっている。

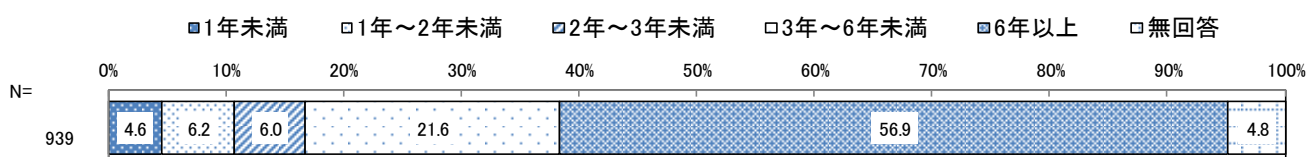
【性別】



【年齢】



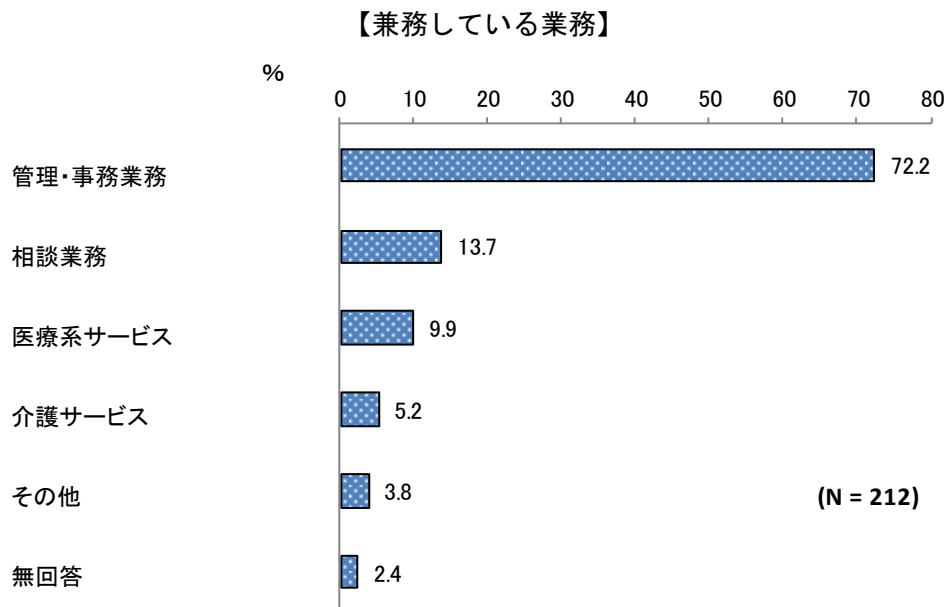
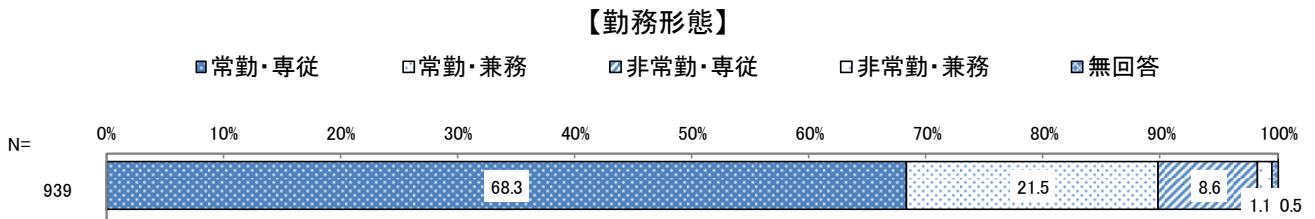
【介護支援専門員としての経験年数】



2. 勤務形態・兼務内容

(問6・問6-1)

◇勤務形態は、「常勤・専従」と「常勤・兼務」を合わせた『常勤』が89.8%となっている。
 ◇兼務している人の業務内容は、「管理・事務業務」が72.2%で最も高く、次いで「相談業務」が13.7%となっている。

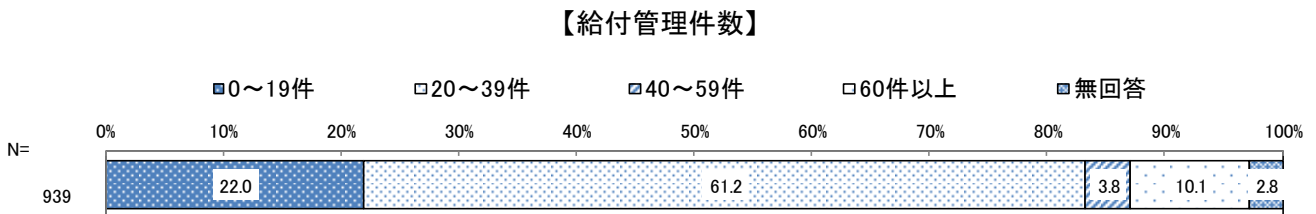


3. ケアマネジメント

(1) 給付管理件数 (問9)

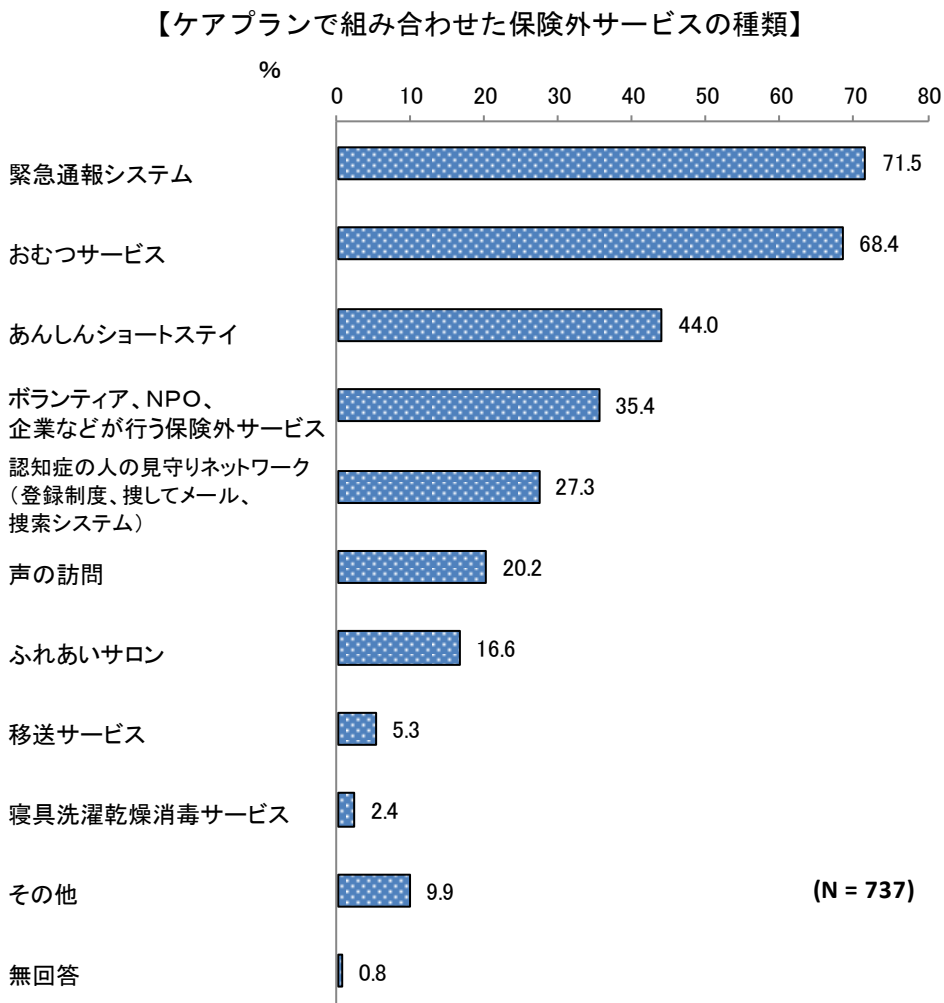
◇令和元年6月に行った給付管理件数は、「20～39件」が61.2%で最も高く、次いで「0～19件」が22.0%、「60件以上」が10.1%となっている。

◇令和元年6月の介護支援専門員一人あたりの給付管理件数は30.6件となっている。なお、平成28年10月の一人あたりの給付管理件数は26.3件となっている。



(2) 組み合わせた保険外サービス (問10-1)

◇ケアプランで組み合わせた保険外サービスの種類は、「緊急通報システム」が71.5%で最も高く、次いで「おむつサービス」が68.4%、「あんしんショートステイ」が44.0%となっている。

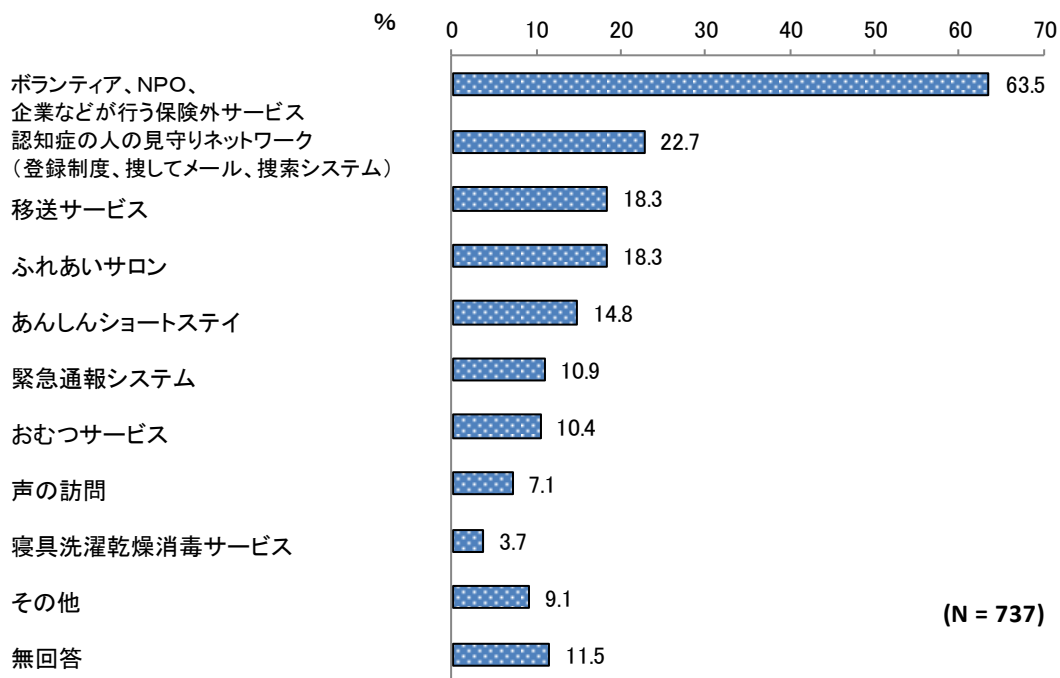


(3) 今後充実が必要なサービス (問 10-3・問 10-4)

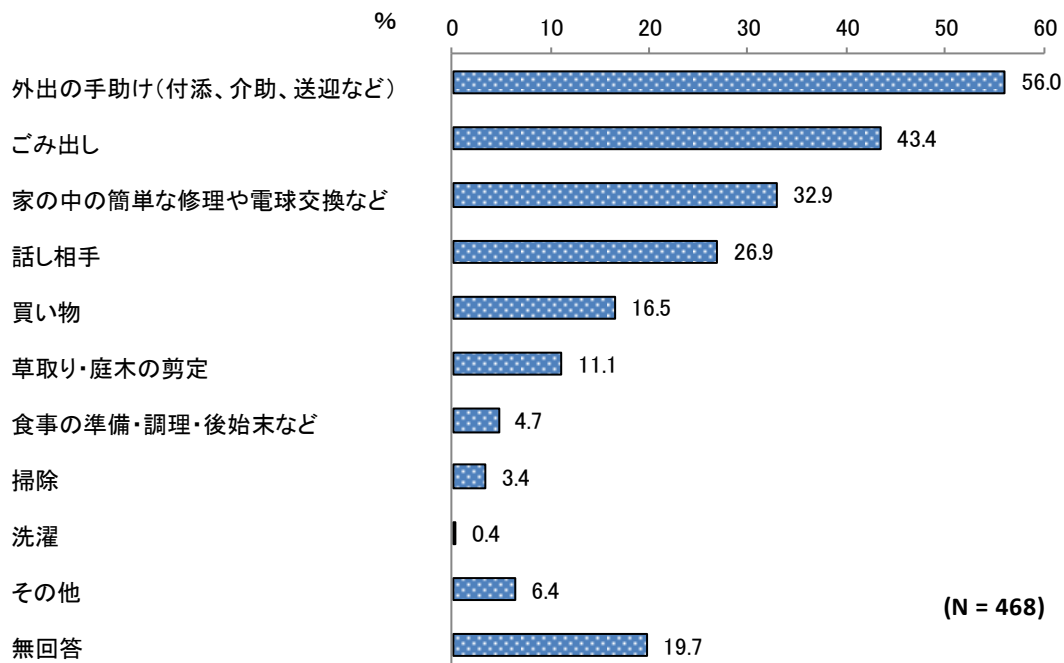
◇今後充実が必要な保険外サービスの種類は、「ボランティア、NPO、企業などが行う保険外サービス」が 63.5%で最も高く、次いで「認知症の人の見守りネットワーク（登録制度、捜してメール、検索システム）」が 22.7%、「移送サービス」「ふれあいサロン」がともに 18.3%となっている。

◇今後充実が必要なボランティアなどが行う保険外サービスの内容は、「外出の手助け（付添、介助、送迎など）」が 56.0%で最も高く、次いで「ごみ出し」が 43.4%、「家の中の簡単な修理や電球交換など」が 32.9%となっている。

【今後充実が必要な保険外サービスの種類】



【今後充実が必要なボランティアなどが行う保険外サービスの内容】

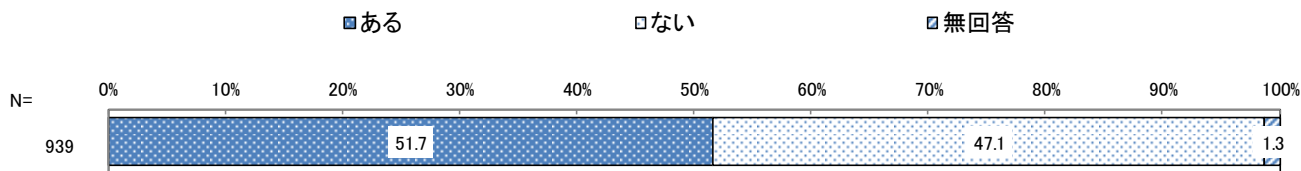


4. 地域ケア会議

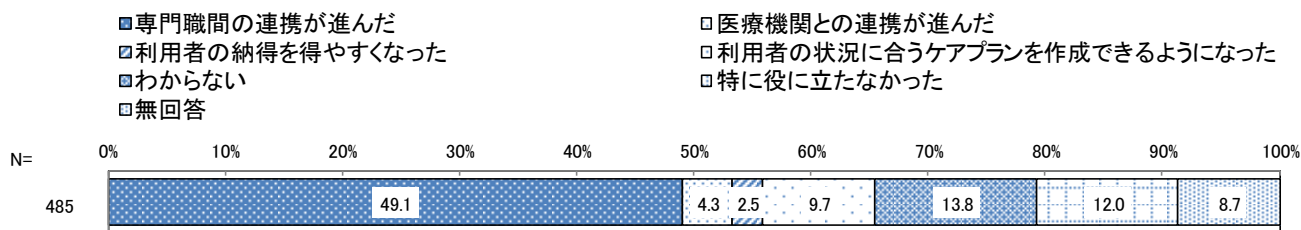
(問 28・問 28-1)

◇地域ケア会議への参加有無は、「ある」が51.7%、「ない」が47.1%となっている。
 ◇地域ケア会議に参加した効果としては、「専門職間の連携が進んだ」が49.1%で最も高く約半数となっている。

【地域ケア会議への参加有無】



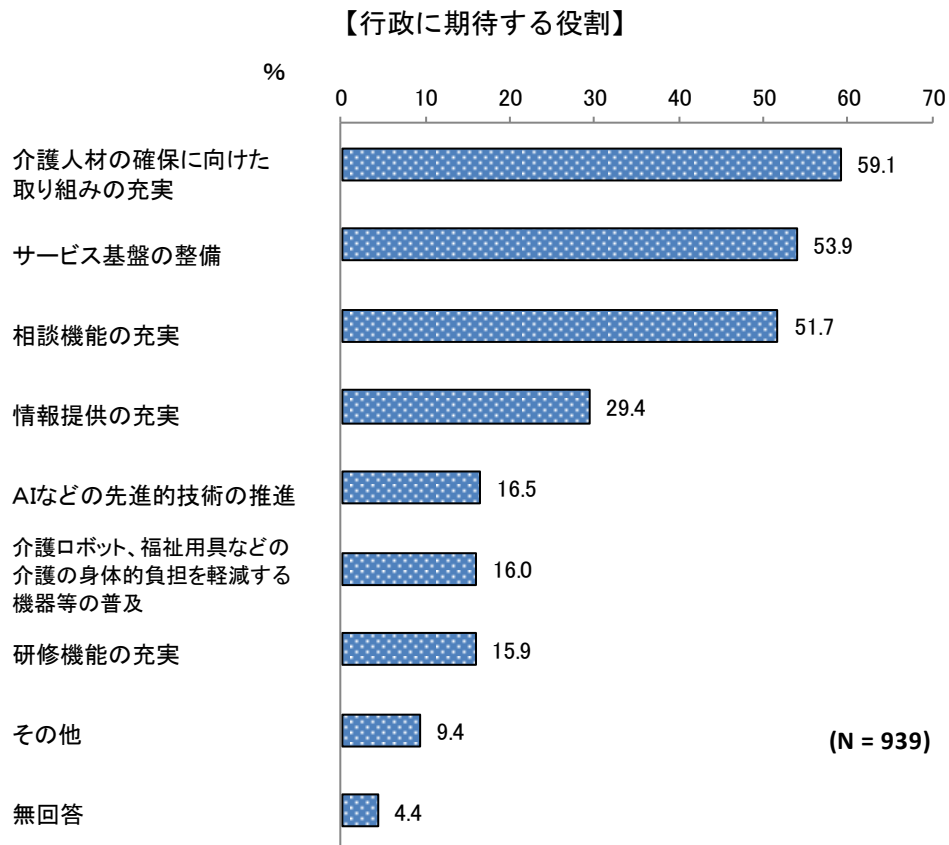
【地域ケア会議の効果】



5. 行政に期待する役割

(問 37)

◇今後、行政に期待する役割は、「介護人材の確保に向けた取り組みの充実」が59.1%で最も高く、次いで「サービス基盤の整備」が53.9%、「相談機能の充実」が51.7%となっている。



令和元年度福岡市高齢者実態調査報告書

【概要版】

令和2年3月

発行 福岡市
企画 福岡市 保健福祉局 高齢社会部 高齢社会政策課
〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号
電話 (092) 711-4595
FAX (092) 733-5587
